

中 条 遺 跡 群

昭和58年度 熊谷市埋蔵文化財調査報告書

1 9 8 4

熊谷市教育委員会

光屋敷遺跡出土遺物凡例

1. 実測図の中心線は、遺物を回転させず実測したもの・実線、180°回転させたもの・一点鎖線、残存している部分で任意に回転させたもの・点線というように区別している。
2. 遺物実測は ㊄ を原測とし、大型のものは ㊄ とした。 ㊄ 以外の縮尺については、各々に記している。
3. 遺構名は、住居址・H、竪穴・S、土壇・P、火葬墓・G、溝・D（居館址・居、近世・近を付す）という略称を使用している。
4. 遺物観察表中法量の単位は、全てcmを用い、推定によって算出された数値には、（ ）を付している。

遺 物 観 察 表

遺構番号	器種	法量 (cm)	出土位置	形態・手法の特徴	(1)胎土 (2)焼成 (3)色調	備考
1H-1 Fig・50	杯一土師器	器高・4.7 口径・13.8	床直上	内面及び口縁部外面は横のナデ。体部外面はケズリ。体部内面中心部に指頭による押圧。	(1)密 (2)酸化 (3)暗茶褐色	㊄ 欠
1H-2	杯一土師器	器高・3.8 口径・12.0	床直上	口唇部が内弯する。内面及び口縁部外面は横のナデ。体部外面はケズリ。体部内面中心部に指頭による押圧。	(1)密 (2)酸化 (3)暗茶褐色	口縁の一部欠
1H-3	杯一土師器	器高・4.5 口径・12.1	床直上	口縁部横ナデ。体部外面はケズリ。内面は横のナデ。内面中心部に指頭による押圧。	(1)密 (2)酸化 (3)黒色	口縁の一部欠
1H-4	杯一土師器	器高・3.7 口径・11.3	貯蔵穴内	口縁部横ナデ。体部外面はケズリ、内面は横のナデ。内面中心部に指頭による押圧。	(1)やや粗く、表面ザラつく (2)酸化 (3)赤褐色	完型
1H-5	杯一土師器	器高・4.0 口径・12.1	貯蔵穴内	口縁部横ナデ。体部外面はケズリ。内面は横のナデ。内面中央部に指頭による押圧。	(1)密 (2)酸化 (3)黒褐色	口縁の一部欠
1H-6	鉢一土師器	残高・10.9 口径・(14.8)	床直上	口縁部横ナデの後ナデ。胴部外面は縦のケズリ。内面は縦のナデ。	(1)密 (2)酸化 (内面は焼成) (3)外面淡褐色、内面黒色	㊄ 残存
1H-7	甕一土師器	器高・26.8 口径・20.9 底径・8.5 胴部最大径・27.0	床直上	口縁部横ナデ。口唇端部及び内面に一条づつ沈線がはしる。胴部内面はナデ。外面は縦のケズリ。底面及び胴部下位は横のケ	(1)密 (2)酸化 (3)淡白色 (底面から上位4cmまで黒色)	完型 底部に炭化物付着

遺構名 番号	器種	法量 (cm)	出土位置	形態・手法の特徴	(1)胎土 (2)焼成 (3)色調	備考
				ズリ。底を丸く仕上げている。		
1H-8	甕一土師器	器高・20.7 口径・13.1 底径・8.0 胴部最大径・18.8	貯蔵穴上 覆土中	口縁部横ナデ。胴部内面はナデ。 外面は斜のケズリ。底はケズリ によって丸く仕上げている。	(1)粗 (2)酸化 (3)暗茶褐色 — 2次火熱を受け赤褐色 及び吸炭し黒色を示す 部分が相剋する。	完型
1H-9	甕一土師器	残高・23.5 口径・18.3 胴部最大径・16.0	床直上	口縁部横ナデ。胴部内面はナデ。 外面は縦のケズリの後部分的に ナデ。	(1)粗 (2)酸化 (3)淡褐色 (外面の は は2次火熱を 受けて赤褐色)	胴部下半欠
1H-10	甕一土師器	残高・15.4 口径・23.1 胴部最大径・18.4	貯蔵穴内	口縁外面及び口唇部内面横ナデ。 口縁内面横のナデ。胴部外面縦 のケズリ。内面ヘラによる横の ナデ。	(1)やや粗 (2)酸化 (3)淡 褐色 (外面は2次加熱を 受け赤褐色あるいは吸炭 し黒色を呈する部分もあ る)	下位 半 欠
1H-11	甕一土師器	器高・28.3 口径・17.9 底径・5.5 胴部最大径・16.5	カマド袖	口縁部横ナデ。胴部外面は縦の ケズリ。内面はヘラによる横の ナデ。底部外面はケズリによっ て丸く仕上げる。内面は指頭による ナデ。口縁はほぼ直立し、わ ずかに外反するのみ。	(1)密 (2)酸化 (3)淡褐色 (外面は赤褐色と黒色が 相剋する)	完型
1H-12	甕一土師器	器高・31.2 口径・22.1 底径・5.2 胴部最大径・17.0	カマド内	口縁部横ナデ。胴部外面は縦の ケズリ。底部周辺は横のナデ。 胴部内面はヘラによる横のナデ 木の葉底。	(1)やや粗 (2)酸化 (3)淡 褐色 (底部は赤褐色、外 面 は は黒色)	口縁の一部欠
1H-13	甕一土師器	器高・37.7 口径・20.3 底径・4.8 胴部最大径・18.7	カマド内	口縁部横ナデ。胴部外面は縦を 中心としたケズリ。底部周辺は 横のケズリ。底面ケズリ。胴部 内面は斜のヘラによるナデ。	(1)密 (2)酸化 (3)淡褐色 (底から胴部最大径の位 置まで2次加熱を受け黒 褐色)	完型
1H-14	甗一土師器	器高・33.8 口径・27.2 孔径・9.2	貯蔵穴内	口縁部横ナデ。胴部外面は縦の ケズリ。下位は横のケズリ。内 面は横・斜のナデ。孔部は横の ナデを加える。	(1)やや粗 (2)酸化 (3)淡 白色	完型
1H-15	甗一土師器	器高・27.6 口径・22.8 孔径・10.1	カマド袖	口縁部横ナデ。胴部外面は縦の ケズリ。内面は斜のナデ。孔は 打ち欠かれた状況。	(1)やや粗 (2)酸化 (3)淡 褐色 (口縁内面吸炭)	完型
2H-1	杯一土師器	器高・4.0	カマド内	口縁部横ナデ。体部外面ケズリ。	(1)密 (2)酸化 (3)淡茶褐	完型

遺構番号	器種	法量 (cm)	出土位置	形態・手法の特徴	(1)胎土 (2)焼成 (3)色調	備考
Fig・51		口径・12.4		内面はナデ。	色	
2H-2	杯-土師器	器高・3.9 口径・(11.2) 底径・(7.0)	床直上	全面ナデ。底部ははりつけ。	(1)やや粗 (2)酸化 (3)赤褐色	㊦残存
2H-3	甕-土師器	器高・40.7 口径・22.2 底径・4.2	カマド内	口縁部横ナデ。胴部外面斜のケズリ。内面は横のナデ。底面はケズリのまま。	(1)粗 (2)酸化 (3)淡褐色 (底から22cm上位まで吸炭)	完型
2H-4	甕-土師器	器高・37.0 口径・19.6 底径・5.0	カマド内	口縁部横ナデ。胴部外面縦・斜のケズリ。底部付近は斜・横のケズリ。内面は横のナデ。	(1)粗 (2)酸化 (3)淡褐色 (底から28.2cm上位まで吸炭)	完型
2H-5	鉢-土師器	器高・8.6 口径・18.2 底径・5.8	カマド内	口縁部横ナデ。胴・底部外面縦・斜のケズリ。内面斜のナデ。	(1)粗 (2)酸化 (3)外面㊦赤褐色、㊦吸炭。内面淡褐色 (全体に薄く吸炭)	完型
2H-6	鉢-土師器	器高・10.6 口径・21.3 底径・5.8	床直上	口縁部横ナデ。胴・底部外面縦・横のケズリ。内面横・斜のナデ。	(1)粗 (2)酸化 (3)外面上位朱色、下位吸炭。内面㊦朱色、㊦淡黄色。	㊦欠
3H-1	杯-須恵器	残高・4.6 口径・(10.8)	床直上	口縁部下端に二段の稜をつくり出す。内面は横方向のナデ。体部上位に二条の沈線による波状文を施す。	(1)密であるが淡黄色粒を多量に含む (2)環元 (3)淡灰色	㊦残存
3H-2	杯-土師器	器高・3.2 口径・11.2	床直上	体部外面横のケズリの後ナデ。口縁部下端に緩い稜をつくる。内面横のナデ。	(1)密 (2)酸化 (3)茶褐色	一部欠
3H-3	杯-土師器	器高・(4.1) 口径・(13.6)	床直上	表面剝離の為整形不明。	(1)細粒であるが粗 (2)酸化 (3)茶褐色	㊦残存
3H-4	杯-土師器	残高・3.6 口径・(13.6)	覆土中	口縁部横ナデ。口唇を外へ折り返すように仕上げる。体部外面横のケズリ。内面横のナデ。	(1)密 (2)酸化 (3)内外表面の一部赤褐色。断面及び表面の大部分黒色。	口縁の一部残存
3H-5	皿-土師器	器高・3.7 口径・20.0	カマド内	内面横のナデ。外面体部ほぼ一方向のケズリ。後口縁部横ナデ。口唇部はわずかにつまみ上げるようにして、丸く仕上げる。	(1)密であるが砂を多量に含む (2)酸化 (3)淡茶褐色	完形
3H-6	甕-土師器	器高・36.2	カマド内	口縁部横ナデ。胴部外面縦のケ	(1)粗 (2)酸化 (3)淡黄褐	底部欠

遺構番号	器種	法量 (cm)	出土位置	形態・手法の特徴	(1)胎土 (2)焼成 (3)色調	備考
		口径・21.6 底径・5.6		ズリ。上位には斜のケズリ、横のナデが、底部付近には横のケズリが加わる。内面横のナデ。口縁部外面中央に、胴部からのケズリ終止線が強く残る。	色 外面底部 胴部吸炭。吸炭周辺部朱色	
3H-7	甕一土師器	残高・20.5 底径・6.8	床直上	胴部内面横のナデ。外面縦のケズリ。底部付近一部横のケズリ。底部は一方向のケズリ	(1)粗 (2)酸化 (3)外面及び断面淡黄色、外面の一部及び底部吸炭。内面小豆色	胴部上半・口縁部欠
3H-8	壺一土師器	器高・7.7 口径・9.5 底径・6.6 胴部最大径・(11.2)	覆土中	口縁部横ナデ。外面上位横のケズリ。下位横のナデ。胴部下位及び底部に獣皮状圧痕。内面上位及び外面口縁は水拭きか。	(1)粗 (2)酸化 (3)断面及び内外面の一部淡茶褐色。内外面の大部分黒褐色	残存
3H-9	台付碗一土師器	残高・4.3 底径・11.0 くびれ径・4.5	覆土中	全面ナデ。脚端部は回転ナデ。	(1)粗 (2)酸化 (3)赤褐色	脚のみ残存
3H-10	手づくね	器高・3.3 口径・(6.6) 底径・5.0	覆土中	内面のみへらによる横のナデ。	(1)粗 (2)酸化 (3)断面淡黄色、内外面黒褐色	口縁のみ欠
3H-11	土錘		覆土中		(1)粗 (2)酸化 (3)黄褐色	完型
3H-12	土錘		覆土中		(1)粗 (2)酸化 (3)赤褐色	残存
4H-1 Fig・52	蓋杯一土師器	器高・(3.9) 口径・(12.8)	覆土中	内面及び口縁は横ナデ。体部外面は横のケズリ。	(1)やや密 (2)酸化 (3)暗茶褐色	残存
4H-2	高杯一土師器		住居址外	外面は縦のケズリの後ナデ。内面は、横のナデ。表面ザラつく。	(1)密 (2)酸化 (3)朱色	脚のみ残存
4H-3	高杯一土師器		覆土中	外面は縦のケズリの後ナデ。内面は、横のナデつけ、内面に輪積痕が明瞭に残る。	(1)やや粗 (2)酸化 (3)赤褐色	脚のみ残存
4H-4	高杯一土師器		覆土中	外面は縦のケズリ。内面は横のナデつけ。ヘソ結合。外面は部分的に朱塗されている。	(1)密 (2)酸化 (3)外面赤褐色、内面暗茶褐色	脚のみ残存
4H-5	埴一土師器	残高・6.1	住居址外	内外面とも横のナデ。接合部内	(1)密 (2)酸化 (3)地は淡	口縁及び胴部

遺構名 番号	器種	法量 (cm)	出土位置	形態・手法の特徴	(1)胎土 (2)焼成 (3)色調	備考
		口径・(11.9) くびれ径・(7.1)		面で口縁側胎土をナデツケ、全 面朱塗されている。	黄褐色	の ₄ 残存
4H-6	壺一土師器	口径・(17.8) くびれ径・(13.3)	覆土中	肩部に斜のケズリがみられるが 他は全体に横のナデ。	(1)密 (2)酸化 (3)淡黄褐 色	上位 ₄ 残存
4H-7	甕一土師器	胴部最大径・25.5 底径・5.7	覆土中	外面は平行の叩き目文様の平行 線が見られその上面に縦のケズ リを加える。底部及び底部周辺 は横のケズリ。内面は横のナデ 内面に接合痕が明瞭に残る。	(1)粗 (2)酸化 (3)外面黒 褐色。内面淡黄褐色	胴部上位から 口縁欠
4H-8	甗一土師器	口径・21.2 底径・8.8 高さ・27.5	覆土中	内外面とも表面が剝離しており 整形痕は不明であるが胴部外面 上位に縦のケズリ痕がみられる。	(1)粗 (2)酸化 (3)外面黒 褐色及び赤褐色 内面黒 ずんだ黄褐色	完型
4H-9	紡錘車	上径・2.1 下径・4.1 高さ・1.7	覆土中	斜面及び平坦面に放射状沈線が みられる。		ほぼ完型
4H-10	双孔円板	径・3.3 厚さ・0.25	覆土中			ほぼ完型
4H-11	ふいご口		覆土中	全面横のナデで整形されている。 対熱部は溶解している。		
5H-1	杯一土師器	口径・(11.9)	覆土中	口縁部横ナデ。体内内面横のナ デ。外面横のケズリ。	(1)粗 (2)酸化 (3)内面暗 茶褐色。外面赤褐色	の ₄ 残存
5H-2	杯一土師器	口径・(11.9)	覆土中	内外面とも表面が剝離しており 整形痕不明。	(1)粗 (2)酸化 (3)朱色	の ₄ 残存
5H-3	高杯一須恵 器	底径・(9.9)	覆土中	全面水挽。端部は内面をくぼま せることによって肥厚させてい る。内面に自然釉が不着してい る。	(1)密 (2)環元 (3)灰褐色	裾部のみ残存
5H-4	壺一土師器	口径・13.0 くびれ径・10.9 底径・5.7 高さ・12.7 胴部最大径・14.5	床直上	口縁部は横ナデ。胴部外面は斜 めのケズリ。底部は横のケズリ。 胴部内面は横のナデ。口縁下は ていねいなナデにより、鋭角に くびれている。	(1)粗 (2)酸化 (3)赤褐色 底部黒班	完型
5H-5	壺一土師器	口径・15.5	床直上	口縁部は横ナデ。胴部内面は横	(1)やや粗 (2)酸化 (3)茶	胴部下位

遺構名 番号	器 種	法 量 (cm)	出土位置	形態・手法の特徴	(1)胎土 (2)焼成 (3)色調	備 考
		くびれ径・13.2 胴部最大径・17.6		のナデ。外面は横のケズリ。外面及び口縁は光沢をもつ。	褐色	底部欠
5H-6	壺一土師器	口径・(12.2) くびれ径・(9.8)	床直上	口縁部横ナデ。胴部内面横のナデ。外面は横のケズリ。	(1)やや粗 (2)酸化 (3)淡赤褐色	口縁の $\frac{1}{4}$ のみ残存
5H-7	土錘	長さ・7.1 長径・1.6	覆土中		(1)粗 (2)酸化 (3)淡黄色	ほぼ完型
6H-1 Fig・53	高杯一土師器	口径・(15.8) くびれ径・(13.5)	覆土中	全面ナデ。接合部はヘソ結合。	(1)やや粗 (2)酸化 (3)赤褐色	杯部の $\frac{1}{4}$ 残存
6H-2	甕一土師器	口径・(14.0) 残高・(8.0)	覆土中	口縁部横ナデ。胴部外面は獣皮による縦のナデ。内面は木口面による横のナデ。	(1)やや粗 (2)酸化 (3)外面暗褐色、黒斑、内面黄褐色	口縁および胴部の一部のみ残存
6H-3	甕一土師器		覆土中	外面縦の刷毛。内面横のナデ。	(1)粗 (2)酸化 (3)暗茶褐色	胴部の一部のみ残存
7H-1	杯一土師器	口径・(13.0) 残高・(4.2)	床直上	口縁および体部内面横ナデ。体部外面横のケズリ。	(1)粗 (2)酸化 (3)赤褐色	全体の $\frac{1}{4}$ 残存
7H-2	杯一土師器	口径・(15.4) 残高・(5.0)	床直上	口縁および内面は横のナデ。体部外面横のケズリ。	(1)やや密 (2)酸化 (3)赤褐色	体部および口縁部の $\frac{1}{4}$ 残存
8H-1	高杯一土師器	口径・12.6 くびれ径・3.6 脚裾径・9.3 高さ・10.8	カマド内	口縁部横ナデ。体部内面は横のナデ。中央部は指頭によるくぼみをもつ。体部外面上位は横のケズリ、下位から脚部へかけて縦のケズリ。裾部は横ナデ、脚内面は横のナデつけ。	(1)密 (2)酸化 (3)朱色	脚裾の一部欠
10H-1	杯一土師器	口径・12.6 高さ・4.6	床直上	口縁部横ナデ。体部外面横のケズリの後ナデを加える。内面ナデ。	(1)やや粗 (2)酸化 (3)淡茶褐色	完型
10H-2	杯一土師器	口径・14.5 高さ・3.7	カマド内	底面および体部をつくりだし口縁部をはりつけている。木の葉底を有する。全面粗いナデで仕上げられている。	(1)粗 (2)酸化 (3)茶褐色	口縁の一部欠
10H-3	杯一土師器	口径・14.8 高さ・4.3	カマド内	外面底部はケズリの後、他は全面ナデのみの仕上げ。丸底である。	(1)粗 (2)酸化 (3)黒褐色	ほぼ完型

遺構名 番号	器種	法量 (cm)	出土位置	形態・手法の特徴	(1)胎土 (2)焼成 (3)色調	備考
10H-4	高杯-土師器		床直上	外面縦のケズリ。裾部は横ナデ境に4条の条線が残る。内面接合部は指頭によるナデつけ、脚部はヘラによる横の連続ケズリ。	(1)やや密 (2)酸化 (3)赤褐色	脚部および杯底部残存
10H-5	高杯-土師器		床直上	外面縦のケズリ。裾部は横のナデを加える。内面ヘソ結合の後横のナデ。	(1)密 (2)酸化 (3)赤褐色	脚部および杯底部残存
10H-6	鉢-土師器	口径・10.2 高さ・7.4 底径・5.2	床直上	内面および口縁部は横のナデ。体部外面横のケズリ。底部ナデ。	(1)粗 (2)酸化 (3)淡赤褐色	完型
10H-7	甕-土師器	口径・17.6 高さ・33.2 底径・5.6	床直上	口縁部横ナデ。胴部内面は口縁付近のみ横、他は縦のナデ。外面は縦のケズリ(上、下) 底部付近は横のケズリ。	(1)粗 (2)酸化 (3)赤褐色	底部欠
10H-8	甕-土師器		カマド内	外面縦のケズリ。底部は横のナデ。内面横あるいは斜のナデ。木の葉底。外面に輪積み痕が明瞭に残る。	(1)粗 (2)酸化 (3)茶褐色 および黒褐色	口縁部を欠く
11H-1	鉢-土師器	口径・19.2 高さ・9.6 底径・6.7	床直上	口縁内外面横ナデ。体部外面上位横のケズリ。中位~下位は後に横のナデを加える。底面はナデで平につくり出される。	(1)粗 (2)酸化 (3)暗茶褐色	完型
12H-1	杯-土師器	口径・12.5 高さ・4.0	覆土中	口縁部横ナデ。体部外面は横のケズリ。内面は横のナデ。放射状の暗文を有す。	(1)やや密 (2)酸化 (3)淡赤褐色	ほぼ完型
12H-2	杯-土師器	口径・12.5 高さ・4.1	覆土中	口縁部横ナデ。体部外面縦のケズリ。内面は横のナデ。	(1)密 (2)酸化 (3)黒褐色	ほぼ完型
12H-3	碗-土師器	口径・12.7 高さ・5.5	覆土中	口縁部横ナデ。体部から底部外面は横のケズリ。内面は横のナデ。内黒。	(1)粗 (2)酸化 (3)茶褐色	一部欠
14H-1 Fig・54	壺-土師器		床直上	表面が剥離しており整形痕は不明瞭であるが胴部外面は横のケズリによって面とりされている。	(1)やや粗 (2)酸化 (3)赤褐色	口縁部欠
14H-2	高杯-土師器	口径・(17.3)	床直上	全面横のナデ。一部に朱塗され	(1)やや粗 (2)酸化 (3)黄	杯部も残存

遺構番号	器種	法量 (cm)	出土位置	形態・手法の特徴	(1)胎土 (2)焼成 (3)色調	備考
	器	残高・(6.0)		た部分がみられる。	褐色	
14H-3	高杯一土師器	口径・18.4 くびれ径・3.6 残高・12.1	床直上	杯底部は脚上面につくり出され体部と接合している。杯部は内外面共ナデ。脚部外面は縦のケズリの後ナデを加える。内面は輪積み痕を残す。	(1)やや粗 (2)酸化 (3)赤褐色	脚裾部のみ欠
14H-4	高杯一土師器	脚底径・14.3	床直上	外面縦のケズリの後ナデを加える。裾部横ナデ。内面は横のナデ。	(1)やや粗 (2)酸化 (3)淡黄褐色	脚 _ミ のみ残存
14H-5	壺一土師器	口径・12.4 くびれ径・8.0	床直上	全面にナデが施される。外傾する口縁部で口唇部に至って直立する形態を示す。	(1)粗 (2)酸化 (3)淡黄褐色	胴部下半欠
14H-6	甕一土師器	口径・15.8 くびれ径・12.4	床直上	表面が剥離しており整形痕は不明瞭であるが、口縁部は横ナデ 胴部外面は横のケズリ。内面は横のナデが施されている。胴部内面に輪積み痕が残る。	(1)密 (2)酸化 (3)黄褐色 一部赤褐色	胴部下半を欠く
15H-1	杯一土師器	口径・(15.5) 器高・5.0	覆土中	口縁部横ナデ。体部内面横のナデ。外面横のケズリ。底部外面一定方向のケズリ。	(1)密 (2)酸化 (3)赤褐色	_ミ 残存
15H-2	杯一土師器	口径・(14.5) 器高・(4.1)	覆土中	口縁部横ナデ。体部外面横ケズリの後ミガキ様ナデが加わる。内面ナデ。	(1)密 (2)酸化 (3)淡黄褐色	_ミ 残存
15H-3	無頸壺一土師器	口径・6.4 器高・7.1	覆土中	全面丁寧なナデで仕上げられている。口縁は横ナデで一段窪められ、対角線上に円孔が外面から4孔穿たれている。	(1)やや粗 (2)酸化 (3)淡黄茶褐色で全体に紫黒色を滞びる。	完型
15H-4	高杯一土師器		覆土中	全面ナデ。杯部内面横。外面縦。	(1)粗 (2)酸化 (3)赤褐色	接合部 _ミ 残存
15H-5	高杯一土師器		覆土中	外面は縦のケズリ。内面は横のケズリ様ナデ。接合付近は一部縦のナデ付け。	(1)粗 (2)酸化 (3)淡赤褐色	脚部のみ残存
15H-6	高杯一土師器		覆土中	表面が剥離しており整形痕は不明。	(1)密 (2)酸化 (3)朱色	脚部のみ残存

遺構番号	器種	法量 (cm)	出土位置	形態・手法の特徴	(1)胎土 (2)焼成 (3)色調	備考
15H-7	甕-土師器	口径・(24.2)	カマド内	内面及び口縁部横のナデ。胴部外面は縦のケズリ。	(1)粗 (2)酸化 (3)赤褐色	上位 + 残存
15H-8	甕-土師器	口径・23.2 底径・8.0 器高・24.4	床直上	内面は口縁部から胴部中位まで横の木口状工具(8mm幅)によるナデ。胴部下位は横のケズリ。外面は、口縁部中位より下は全面縦の木口状工具によるミガキ様ナデ。口縁部外面下はミガキ様ナデの後、横のナデ。円孔部は最後にケズリによって仕上げている。	(1)粗 (2)酸化 (3)茶褐色 一部黒褐色	ほぼ完型
周辺-A	杯-土師器	口径・(13.8) 器高・5.7	45-25区	口縁部及び体部内面上位横ナデ。体部内面はナデ。外面は細かいケズリ。口縁部は細く仕上げられている。	(1)密 (2)酸化 (3)淡黄茶褐色	+ 残存
周辺-B	高台椀-須恵器	底径・6.5	45-25区	体部は全面ナデを加える。高台は、糸切り底に貼り付け、周辺部横ナデ。	(1)粗 (2)環元 (3)灰黒色	上位欠
周辺-C	蓋-須恵器	口径・(13.2) 高さ・(4.5)	45-30区	体部外面は回転ケズリ。体部内面中央は指頭によるナデ、他は全て回転ナデ。	(1)やや密 (2)環元 (3)灰黒色	+ 残存
周辺-D	椀-土師器	口径・9.7 底径・4.3 高さ・5.1	45-18区	口縁部及び体部内面は横のナデ。体部外面及び底部外面は横のケズリの後ナデを加える。	(1)粗 (2)酸化 (3)淡黄褐色 一部暗褐色	完型
周辺-E	甕-土師器	口径・18.5 底径・4.2 高さ・15.1	45-16区	内面は横もしくは斜のナデで丁寧に仕上げられている。口縁部は横ナデ。胴部外面は縦の細かいケズリ。円孔は内面から横のケズリ。外面からナデで仕上げられている。	(1)やや粗 (2)酸化 (3)内面赤褐色、外面の1部黒褐色	完型
16H-1 Fig・55	壺-土師器	口径・14.3 くびれ径・11.1	覆土中	頸部から口縁部への移行は強い横ナデによって明確な稜がつくり出されている。全面に表面が剝離しており、整型痕は不明である。胴部内面に輪積み痕が残る。	(1)密 (2)酸化 (3)朱色	胴肩部より上位のみ残存

遺構名 番号	器種	法量 (cm)	出土位置	形態・手法の特徴	(1)胎土 (2)焼成 (3)色調	備考
16H-2	甕一土師器	口径・9.2 胴部最大径・15.7	覆土中	口縁部横ナデ。胴部外面斜のケズリ。部分的に縦のナデが加わる。内面は横の水ぶき様ナデ。	(1)粗 (2)酸化 (3)淡黄白色、外面の一部茶褐色、周辺部吸炭	胴部中央より上位残存
16H-3	甕一土師器	口径・13.3 くびれ径・11.3 底径・6.2 高さ・14.6	覆土中	外面は2次の火熱を受け、表面は剝離しているが、胴部には下から上への砂粒の動きがあり、ケズリが施されていたことがわかる。胴部内面上位は横のナデ。下位から底部は不定方向のナデ。	(1)粗 (2)酸化 (3)淡赤褐色	㊦残存
16H-4	甕一土師器	口径・11.4 くびれ径・9.0 底径・5.4 高さ・16.8	床直上	外面は2次火熱を受け表面が剝離しているが、全面ナデで仕上げられているようである。内面口縁部は横ナデ。胴部は円板を貼り付けている。内面に炭化物が付着している。	(1)粗 (2)酸化 (3)朱色、一部吸炭	完型
16H-5	甕一土師器	口径・18.8 円孔径・3.9 高さ・16.1	床直上	口縁部横ナデ。胴部外面縦あるいは斜のケズリの後外面全体に縦のナデを加えている。胴部内面は横あるいは斜のナデ。円孔部もナデによって仕上げられている。下端より3.5～4cm上位から上部の㊦は2次火熱を受けている。	(1)粗 (2)酸化 (3)淡黄白色、火熱受部朱色もしくは吸炭	完型・16H-4と入れ子状に出土
17H-1	杯一土師器	口径・14.2 高さ・3.5	覆土中	口縁部及び体部内面周辺幅1cmは横ナデ。体部内面中央部ナデ。体部外面はケズリの後ナデを加える。	(1)やや粗 (2)酸化 (3)黒ずんだ赤褐色	口縁の一部欠
17H-2	杯一土師器	口径・(13.5) 高さ・4.4	覆土中	口縁部横ナデ。体部内面ナデ。外面は横のケズリ。	(1)やや密 (2)酸化 (3)赤褐色	㊦残存
17H-3	高杯一須恵器		覆土中	脚部は三方透しになる。杯部は回転ナデが施されており、内面はうず巻き状を呈す。	(1)やや粗 (2)環元 (3)灰黒褐色	杯底部のみ残存
17H-4	高杯一土師器	脚底径・12.4	覆土中	脚部外面縦のケズリ。内面横のナデつけ。脚裾部横ナデ。外面に朱塗されている。	(1)粗 (2)酸化 (3)黄褐色	脚部のみ残存
17H-5	碗一土師器	口径・(11.3)	覆土中	口縁部横ナデ。体部内面は横の	(1)粗 (2)酸化 (3)外面茶	㊦残存

遺構番号	器種	法量 (cm)	出土位置	形態・手法の特徴	(1)胎土 (2)焼成 (3)色調	備考
		高さ・6.3		連続したナデ。外面は横の細かいケズリで光沢をもつ。底部内面はナデ。	褐色、内面黒色	
17H-6	鉢—土師器	口径・(17.0)	覆土中	口縁部横ナデ。体部内面水ぶき外面縦のケズリ。	(1)粗 (2)酸化 (3)黒ずんだ赤褐色	体部中位より上 ₃ 残存
17H-7	壺—土師器	口径・(18.0)	覆土中	折り返し口縁の下端に指頭の圧痕を加えその上から横ナデを施している。頸部は横のナデ。外面に朱塗されている。	(1)やや粗 (2)酸化 (3)淡黄褐色	口縁部の一部のみ残存
17H-8	埴—土師器	口径・4.6 胴部最大径・7.2 底径・3.8	覆土中	全面ナデで仕上げられている。内面底部には、内面整形の際のヘラ先の条痕が略放射状に残る。	(1)密 (2)酸化 (3)淡赤褐色、 ₄ 黒褐色	口縁部欠
17H-9	甕—土師器	口径・(9.6)	覆土中	口縁部横ナデ。胴部内面横のナデ。外面は縦の刷毛目。	(1)密 (2)酸化 (3)淡赤褐色	口縁部のみ残存
17H-10	土製支脚	下端径・6.4 上端径・4.5 高さ・9.8	覆土中	外面はミガキ様のナデで仕上げられている。上・下端面には条線が各方向に不規則に入る。		完型
17H-11	土錘		覆土中		(1)粗 (2)酸化 (3)黄褐色	完型
18H-1 Fig・56	甕—土師器	口径・15.8 高さ・29.2	床直上	口縁部横ナデ。胴部及び底部外面横もしくは斜のケズリ様ナデ。内面は横もしくは斜のナデ。	(1)粗 (2)酸化 (3)茶褐色 底部吸炭	ほぼ完型
18H-2	甕—土師器	口径・(20.8) 底径・(11.2) 高さ・(29.0)	床直上	口縁部横ナデ。胴部はケズリのち縦のナデを加える。上半分にケズリ痕が残る。内面は全面ナデ。	(1)粗 (2)酸化 (3)淡黄赤褐色 胴部外面は中位から底部黒褐色	底部欠、全体のみ残存
18H-3	甕—土師器	口径・21.2 底径・(10.8) 高さ・31.0	床直上	胴部外面は全面ナデで仕上げている。口縁部横ナデ。内面も全面ナデ。	(1)やや粗 (2)酸化 (3)上半黄褐色、下半黒褐色	全体のみ残存
18H-4	甕—土師器	口径・21.4 くびれ径・18.4	床直上	口縁部横ナデ。胴部外面斜のケズリ。下半部は横のケズリ。全面ナデを加える。内面は全面ナデ。	(1)粗 (2)酸化 (3)上半赤褐色、下半黒褐色	のみ残存
18H-5	甕—土師器	口径・(27.6)	床直上	口縁部横ナデ。外面斜めケズリ	(1)やや粗 (2)酸化 (3)外	上半部のみ残存

遺構番号	器種	法量 (cm)	出土位置	形態・手法の特徴	(1)胎土 (2)焼成 (3)色調	備考
		くびれ径・(24.0)		内面は横のナデ。	面黒褐色、内面赤褐色	
18H-6	甕一土師器	口径・(21.2) くびれ径・(18.6)	床直上	口縁部横ナデ。胴部外面斜のケズリのち斜のナデを加える。内面横のナデ。	(1)粗 (2)酸化 (3)黄赤褐色	口縁の $\frac{1}{2}$ 残存
18H-7	甕一土師器	口径・21.2 くびれ径・17.4	床直上	口縁部横ナデ。胴部外面ケズリのち斜のナデ。	(1)粗 (2)酸化 (3)黄赤褐色	肩部より上位 $\frac{1}{2}$ 残存
18H-8	甕一土師器	口径・(17.4) くびれ径・(8.1)	床直上	胴部外面上位は横のケズリ。中位より下部は縦もしくは斜のケズリ。口縁部は横ナデののちナデで屈曲部をつくり出し、略コの字状を呈する。内面全面横のナデ。輪積痕を残す部分もある。	(1)やや密 (2)酸化 (3)黒ずんだ茶褐色	底部欠全体の $\frac{1}{2}$ 残存
18H-9	甕一土師器	口径・(23.2) くびれ径・(18.8)	床直上	口縁部横ナデ。胴部外面斜のケズリ。内面ナデ。	(1)粗 (2)酸化 (3)口縁部黒褐色、胴部赤褐色	口縁の $\frac{1}{2}$ 残存
18H-10	甕一土師器	口径・21.8 くびれ径・15.0	床直上	表面が剥離しており整形痕は不明であるが、胴部外面に面とりが見られ、ケズリの後とみられる。	(1)粗 (2)酸化 (3)淡赤褐色	口縁の $\frac{1}{2}$ 残存
18H-11	甕一土師器	口径・21.4 くびれ径・15.6	床直上	口縁部横ナデ。胴部外面縦のケズリ。内面横のナデ。	(1)やや密 (2)酸化 (3)赤褐色	口縁の $\frac{1}{2}$ 残存
18H-12	甕一土師器	口径・(24.0) くびれ径・(17.8)	床直上	口縁部横ナデ。胴部外面は縦のケズリ。	(1)やや密 (2)酸化 (3)赤褐色	口縁部の $\frac{1}{2}$ 残存
18H-13	甕一土師器	口径・23.6 くびれ径・17.6	床直上	口縁部横ナデ。胴部外面縦のケズリ。内面は横のナデ。	(1)やや密 (2)酸化 (3)口縁部黄赤褐色、胴部黒褐色	口縁部の $\frac{1}{2}$ 残存
18H-14	甕一土師器	口径・22.4 くびれ径・21.0	床直上	表面が剥離しており整形痕は不明であるが、胴部外面上位に面とりがみられケズリが施されたとみられる。	(1)やや密 (2)酸化 (3) $\frac{1}{2}$ 赤褐色、 $\frac{1}{2}$ 灰褐色	底部欠、全体の $\frac{1}{2}$ 残存
18H-15	甕一土師器	口径・20.6 くびれ径・16.0	床直上	口縁部横ナデ。胴部外面縦のケズリ。くびれ部の一部に横のケズリがみられる。内面は横のナデ。	(1)やや粗 (2)酸化 (3)茶褐色	口縁部及び胴上位残存
18H-16	甕一土師器	底径・5.4	床直上	胴部外面縦のケズリ。内面はナ	(1)やや粗 (2)酸化 (3)茶	胴下位から底

遺構番号	器種	法量 (cm)	出土位置	形態・手法の特徴	(1)胎土 (2)焼成 (3)色調	備考
				デ。底部及び底部付近は指頭によるナデ。	褐色	部残。15と同一個体と思われる。
18H-17	甕一土師器	口径・20.8 くびれ径・14.6	床直上	口縁部横ナデ。胴部外面縦のケズリ。内面横のナデ。	(1)粗 (2)酸化 (3)赤褐色	口縁及び胴上位残存
18H-18	甕一土師器	口径・20.0 くびれ径・14.2	床直上	口縁部横ナデ。胴部外面縦のケズリ一部ナデが加わる。内面横のナデ。	(1)やや粗 (2)酸化 (3)赤褐色、 $\frac{1}{2}$ 灰赤褐色	口縁及び胴上位残存
18H-19	甕一土師器	口径・21.0 くびれ径・16.2	床直上	口縁部横ナデ。胴部外面縦のケズリ。内面は横のナデ。	(1)やや粗 (2)酸化 (3) $\frac{1}{2}$ 黄褐色、 $\frac{1}{2}$ 黒褐色	口縁及び胴上位残存
18H-20	甕一土師器	口径・(24.0) くびれ径・(18.4)	床直上	口縁部横ナデ。胴部外面縦のケズリ。内面横のナデ。	(1)粗 (2)酸化 (3)黄褐色	口縁及び胴上位 $\frac{1}{2}$ 残存
18H-21	甕一土師器	口径・16.6 くびれ径・13.6	床直上	口縁部横ナデ。胴部外面細かい縦のケズリ一部斜のナデが加わる。内面横のナデ。	(1)粗 (2)酸化 (3)赤褐色	口縁及び胴上位 $\frac{1}{2}$ 残存
18H-22	甗一土師器	口径・23.6 円孔径・9.3 高さ・28.6	床直上	表面が剥離しており整形痕は不明であるが全面ナデで仕上げられている。	(1)やや粗 (2)酸化 (3)淡灰褐色	把手を欠く
1 S-1 Fig・57	杯一土師器	口径・12.5 底径・7.1 高さ・3.1	覆土中	内面全面ナデ。外面全面ケズリケズリは、不定方向になされている。	(1)粗 (2)酸化 (3) $\frac{1}{2}$ 黄白色、 $\frac{1}{2}$ 黒褐色	$\frac{1}{2}$ 欠
1 S-2	杯一土師器	口径・13.3 高さ・4.2	覆土中	口縁部横ナデ。体部外面一定方向のケズリ。周辺部にナデを加える。内面は横のナデ。	(1)粗 (2)酸化 (3)淡黄白色一部赤褐色、体部外面吸炭	$\frac{1}{2}$ 残存
1 S-3	杯一土師器	口径・11.4 高さ・4.7	覆土中	表面が剥離しており整形痕は不明。	(1)粗 (2)酸化 (3)淡黄赤褐色	$\frac{1}{2}$ 残存
1 S-4	蓋杯一土師器	口径・13.6 高さ・4.4	覆土中	口縁部横ナデ。体部外面ケズリ内面横ナデ。全面朱塗されている。	(1)密 (2)酸化	$\frac{1}{2}$ 残存
1 S-5	杯一土師器	口径・12.2 底径・5.4 高さ・4.9	覆土中	外面は全面ケズリ。口縁部にはナデを加える。内面は全面ナデ。	(1)粗 (2)酸化 (3)灰白色 外面の大部分黒褐色	$\frac{1}{2}$ 欠

遺構番号	器種	法量 (cm)	出土位	形態・手法の特徴	(1)胎土 (2)焼成 (3)色調	備考
1S-6	杯一土師器	口径・17.2 高さ・5.4	覆土中	口縁部横ナデ。体部外面横のケズリ。底部一定方向のケズリ。	(1)粗 (2)酸化 (3)赤褐色	±残存
1S-7	杯一土師器	口径・17.2 高さ・6.4	覆土中	口縁部及び体部内面横ナデ。体部外面ケズリ。	(1)やや密 (2)酸化 (3)赤褐色および黒褐色	底部欠全体の±残存
1S-8	高杯一須恵器		覆土中	全面回転ナデ。下端部に脚透孔を穿った、刃の痕が一ヵ所認められる。	(1)粗 (2)環元 (3)灰褐色	杯部下位のみ残存
1S-9	高杯一土師器	くびれ径・4.6 脚裾径・9.1	覆土中	全面横ナデ。杯部内面底はナデ。	(1)密 (2)酸化 (3)黒褐色	脚部のみ残存
1S-10	てづくね		覆土中		(1)粗 (2)酸化 (3)茶褐色	完型
1S-11	てづくね		覆土中		(1)粗 (2)酸化 (3)灰褐色	完型
1S-12	てづくね		覆土中	全面ナデ。	(1)粗 (2)酸化 (3)灰黄褐色、黒褐色	完型
1S-13	土錘		覆土中		(1)粗 (2)酸化 (3)灰褐色	完型
1S-14	土錘		覆土中		(1)粗 (2)酸化 (3)灰褐色	完型
1S-15	土錘		覆土中		(1)粗 (2)酸化 (3)灰褐色	完型
2S-1	杯一土師器	口径・(13.4) 高さ・(4.5)	覆土中	口縁部横ナデ。体部外面ケズリ様ナデ。	(1)粗 (2)酸化 (3)赤褐色	±残存
2S-2	杯一土師器	口径・(15.3) 高さ・(5.3)	覆土中	口縁部横ナデ。体部外面ケズリ内面ナデ。	(1)密 (2)酸化 (3)淡黄赤褐色	±残存
2S-3	碗一土師器	口径・(15.7) 高さ・(6.8)	覆土中	口縁部横ナデ。体部および底部外面は横のケズリ。内面は横のナデ。	(1)粗 (2)酸化 (3)灰白色 外面底部吸炭	±残存
2S-4	杯一土師器	口径・12.1 高さ・4.6	覆土中	口縁部横ナデ。体部内面ナデ。中央部窪みをもつ。体部外面ケズリ。	(1)やや粗 (2)酸化 (3)赤褐色	口縁の一部欠
2S-5	碗一土師器	口径・11.4 高さ・3.2	覆土中	口縁部横ナデ。体部外面横のケズリ。内面は輪積み痕をそのまま残す。	(1)粗 (2)酸化 (3)灰白色	口縁部の±残存

遺構名 番号	器種	法量 (cm)	出土位置	形態・手法の特徴	(1)胎土 (2)焼成 (3)色調	備考
2 S-6	高杯-土師器		覆土中	外面縦のケズリの後ナデを加える。内面ナデ付け。ヘソ接合を脚内より四方ヘナデ付け。	(1)やや粗 (2)酸化 (3)赤褐色	脚部のみ残存
2 S-7	甕-須恵器	口径・(55.4)	覆土中	2段目に櫛描波状文がみられる。	(1)粗 (2)環元 (3)外面黒褐色内面灰褐色	口縁の一部のみ残存
2 S-8	甌-土師器	孔径・3.1	覆土中	外面全面ケズリ。内面および円孔部ナデ。	(1)粗 (2)酸化 (3)内面赤褐色、外面灰黄色一部、黒褐色	底部のみ残存
2 S-9	土錘		覆土中		(1)粗 (2)酸化 (3)灰褐色	完型
3 P-1 Fig・58	杯-土師器	口径・(14.0) 高さ・(4.6)	覆土中	口縁部横ナデ。体部外面ケズリ内面ナデ。	(1)密 (2)酸化 (3)黄赤褐色	㊦残存
3 P-2	杯-土師器	口径・(12.9) 高さ・(4.7)	覆土中	口縁部横ナデ。体部外面ケズリ内面ナデ	(1)密 (2)酸化 (3)黒褐色	㊦残存
3 P-3	杯-土師器	口径・(15.7)	覆土中	全面ナデで仕上げられている。口縁外面及び内面全面に朱塗されている。	(1)密 (2)酸化 (3)赤褐色	全体の㊦残存
3 P-4	卮-須恵器	口径・(9.3)	覆土中		(1)密 (2)環元 (3)灰褐色	口縁の一部のみ残存
3 P-5	鉢-土師器	口径・(17.4) 底径・(5.9) 高さ・12.2	覆土中	口縁部横ナデ。底部及び体部外面は斜のケズリの後縦あるいは斜のナデ。内面はナデ。底部は窪みをもつ。	(1)密 (2)酸化 (3)淡赤褐色	㊦残存
3 P-6	甕-土師器	口径・14.6 くびれ径・12.8	覆土中	口縁部横ナデ。胴部外面縦のナデ。後口縁下1.3 cm幅のナデを加える。胴部内面横のナデ。	(1)粗 (2)酸化 (3)茶褐色	上半㊦残存
4 P-1	板石塔婆		覆土中	阿弥陀如来種子。イ一点がク一点の間に入る形式をとる。	縁泥片岩	○治七年七月
8 P-1	杯-土師器	口径・(12.8) 高さ・4.1	覆土中	表面が剥離しており、整型痕は不明。内面底部に窪みをもつ。	(1)やや粗 (2)酸化 (3)淡黄褐色、外面底部黒褐色	㊦残存
8 P-2	杯-土師器	口径・(10.8) 高さ・(2.6)	覆土中	表面が剥離しており、整型痕不明。	(1)やや粗 (2)酸化 (3)赤褐色	㊦残存

遺構名 番号	器種	法量 (cm)	出土位置	形態・手法の特徴	(1)胎土 (2)焼成 (3)色調	備考
居館址北 堀-1 Fig・59	かわらけ	口径・6.0 底径・3.1 高さ・2.1	覆土中	底部以外水拭。底部は柾目痕が 残る。口縁部にタール付着。	(1)密 (2)酸化 (3)淡黄褐 色	口縁の一部欠
居館址北 堀-2	かわらけ	口径・(11.1) 底径・6.6 高さ・3.0	覆土中	底部以外水拭。回転糸切り底。	(1)粗 (2)酸化 (3)赤褐色	✖️残存
居館址北 堀-3	かわらけ	口径・(10.7) 底径・5.2 高さ・3.1	覆土中	底部以外水拭。回転糸切り底。	(1)粗 (2)酸化 (3)黄白色	✖️残存
居館址北 堀-4	かわらけ	口径・(12.0) 底径・7.6 高さ・2.5	覆土中	底部以外水拭。回転糸切り底。	(1)粗 (2)酸化 (3)淡灰褐 色	✖️残存
居館址北 堀-5	かわらけ	口径・13.0 底径・6.6 高さ・3.1	覆土中	底部以外水拭。回転糸切り底。	(1)粗 (2)? (3)灰色	✖️残存
居館址北 堀-6	かわらけ	口径・11.8 底径・6.1 高さ・3.2	覆土中	底部以外水拭。回転糸切り底。	(1)やや粗 (2)? (3)灰白 色	✖️残存
居館址北 堀-7	かわらけ	口径・(11.4)	覆土中	底部以外水拭。回転糸切り底。	(1)やや粗 (2)? (3)灰白 色	体部上半✖️残 存
居館址北 堀-8	摺鉢		覆土中	6条の縦筋で内面に凹凸を作り 出している(楕状工具による)	(1)粗 (2)酸化 (3)芯黒色 内外面紫白褐色	体部のみ一部 残存
居館址北 堀-9	摺鉢		覆土中	1条ずつの条線によって縦横に 曲線を描き凹凸を作り出してい る。	(1)粗 (2)酸化? (3)芯黒 色、内外灰白褐色	底部付近一部 のみ残存
居館址北 堀-10	内耳軟質陶 器	口径・(38.0) 底径・(37.0) 高さ・5.2	覆土中	全面ナデによって仕上げられて いる。胴部外面のみススが付着 している。	(1)やや粗 (2)酸化 (3)灰 黒色	全体の✖️残存
居館址北 堀-11	内耳軟質陶 器	口径・(34.2) 底径・(30.4) 高さ・6.0	覆土中	全面ナデによって仕上げられて いる。胴部外面のみススが付着 している。内面中央に段を有す る。	(1)やや粗 (2)酸化 (3)灰 黒色	全体の✖️残存
居館址北	内耳軟質陶	口径・(38.0)	覆土中	全面ナデによって仕上げられて	(1)やや粗 (2)酸化 (3)底	全体の✖️残存

遺構名 番号	器種	法量 (cm)	出土位置	形態・手法の特徴	(1)胎土 (2)焼成 (3)色調	備考
堀-12	器	底径・(34.4) 高さ・5.8		いる。胴部外面のみススが附着している。	部外面のみ灰黒色、その他全面黒色	
居館址北 堀-13	内耳軟質陶器		覆土中	全面ナデによって仕上げられている。ススの附着はない。胴部内面に段を有する。	(1)やや粗 (2)酸化 (3)全面灰黒褐色	全体の も 残存
居館址北 堀-14	内耳軟質陶器	口径・(26.2)	覆土中	全面ナデによって仕上げられている。胴部外面にススが附着している。	(1)やや粗 (2)酸化 (3)灰白色	底部欠、口縁 胴部 も 残存
居館址北 堀-15	内耳軟質陶器	口径・(34.0)	覆土中	全面ナデによって仕上げられている。ススの附着がない。	(1)やや密 (2)酸化? (3)灰褐色	底部欠、口縁 胴部 も 残存
居館址北 堀-16	内耳軟質陶器	口径・(33.3) 底径・(28.2) 高さ・16.4	覆土中	全面ナデによって仕上げられている。ススの附着がない。胴部から底部への移行は2.2cmの斜面をもつ。	(1)やや粗 (2)酸化 (3)淡黄褐色、内面下半部黒色	全体の も 残存
居館址北 堀-17	土製滑車	径・6.0 厚さ・2.9 円孔径・1.6	覆土中	下面は平坦面をもち、上面は台形を示す。中央部は上下面を盛り上げ深さ1.2cmV字形の溝を作り出している。溝底部は摩擦によって光沢をもつ。円孔内は擦痕は認められない。	(1)粗 (2)酸化 (3)黄褐色	全体の も 残存
居館址北 堀-18	二又状銅製品	長さ・19.4	覆土中	上端が空洞の被物であり、二本の足が埋め込まれている。足は先端が細くなり、上下幅より横幅が大きい。被物に の 形文有り。	銅製	片足欠
居館址北 堀-19	鉄製刀子	幅・0.85	覆土中			柄部欠
居館址北 堀-20	鉄製刀子	幅・1.0	覆土中	柄部分であり銅製の柄頭に装着されている。		刃部欠
居館址北 堀-21 Fig・60	飾り金具	直径・11.7 厚さ・0.03	覆土中	十葉形の飾り板で、菊花文、杉葉文、等の浮文がみられる。明確な釘穴は一個所確認されている。		一部欠
居館址北 堀-22	石皿	口径・(30.8) 内径・(26.4)	覆土中	内面はかなりの擦痕が認められる内外面共整形している。		口縁の も 残存

遺構名 番号	器 種	法 量 (cm)	出土位置	形態・手法の特徴	(1)胎土 (2)焼成 (3)色調	備 考
居館址北 堀-23	石臼	口径・(27.4) 内径・(22.0)	覆土中	内外面共整形している。		全体の ま 残存
居館址北 堀-24	石臼	口径・(32.0) 内径・(26.4)	覆土中	内外面共整形している。		全体の ま 残存
居館址北 堀-25	石臼	口径・(36.4) 内径・(30.8)	覆土中	外面は整形されていない。		全体の ま 残存
居館址北 堀-26	板石塔婆		覆土中	延文5年銘あり。	緑泥片岩	中央の一部のみ残存
居館址北 堀-27	板石塔婆		覆土中	阿弥陀如来種子。イ一点がク一点の下に来る形式。基部及び裏面にノミ痕がみられる。貞治七年銘あり。	緑泥片岩	山形から額部の一部欠
居館址北 堀-28 Fig・61	五輪塔 (空・風輪)		北壁	空・風輪および火輪へのさしこみをつくりだしている。空輪は宝珠形を成す。風輪は上下面が平坦となり、側面も直線的である。さしこみは下部が狭い。		完型
居館址北 堀-29	五輪塔 (火輪)		覆土中	全面摩滅しており、稜線は明確でない。風輪の受けは、摺鉢状を呈する。		一部欠
居館址北 堀-30	五輪塔 (火輪)		覆土中	四面に、ラ・ラー・ラン・ラクの刻字がある。風輪の受けは、円筒状を呈する。		ほぼ完型
居館址北 堀-31	五輪塔 (水輪)		覆土中	上・下端は未整形でわずかに窪みをもつ。		完型
2G-1 Fig・62	長頸瓶 一灰釉	頸部径・5.4 底部径・7.3 残高・14.5	火葬墓中	最大径を肩部やや下位にもつ。高台はつくり出されており、底面に敷いた繊維痕がみられる。肩から上位に自然釉がかかる。	(1)密 (2)環元 (3)灰褐色	頸から口縁を欠く。蔵骨器として使用
2G-2	蓋一須恵器	天井径・5.4 下端径・16.1 高さ・3.0	火葬墓中	全面回転ナデ。天井部は後にナデを加える。	(1)やや密、白色針状物質を含む (2)環元 (3)灰紫褐色	完型。蔵骨器の台として使用
近D-1	かわらけ	口径・6.8	覆土中	底部糸切りのまま、内面指頭に	(1)やや密 (2)酸化 (3)淡	ま 欠

遺構名 番号	器種	法量 (cm)	出土位置	形態・手法の特徴	(1)胎土 (2)焼成 (3)色調	備考
		底径・4.3 高さ・1.9		よる調整。口唇部にタールが付着している。	黄褐色	
近D-2	杯-陶器	口径・(13.0) 底径・6.3 高さ・3.4	覆土中	糸切り底。底部内面一定方向のナデの後、体部ナデ。外面に水拭き終了時の痕跡が明瞭に残る。	(1)密 (2)環元 (3)口縁部 灰褐色、その他赤褐色	ㄱ欠
近D-3	甕-陶器	口径・(34.8)	覆土中	口唇部は平坦面を成し、胴部はほぼ垂直である。口唇および胴部内面に炭化物が付着している。胴部外面は楕描きの平行線及び波状文を施す。	(1)粗 (2)環元 (3)茶褐色	上位のㄱ残存
近D-4	摺鉢-陶器	底径・(12.2)	覆土中	底面円、体部直線状の沈線が配される。外面底部にタール付着。	(1)やや粗 (2)環元 (3)灰 茶褐色	底部付近の一部のみ残存
近D-5	瓦	厚さ・1.5	覆土中	外面縄目、内面布目の圧痕。	(1)やや粗 (2)環元 (3)灰 色	一部のみ残存
周辺-F	板石塔婆		11-23区	阿弥陀如来種子、イ一点がク一点の間に入る型式。	緑泥片岩	上半のみ残存

遺物写真図版

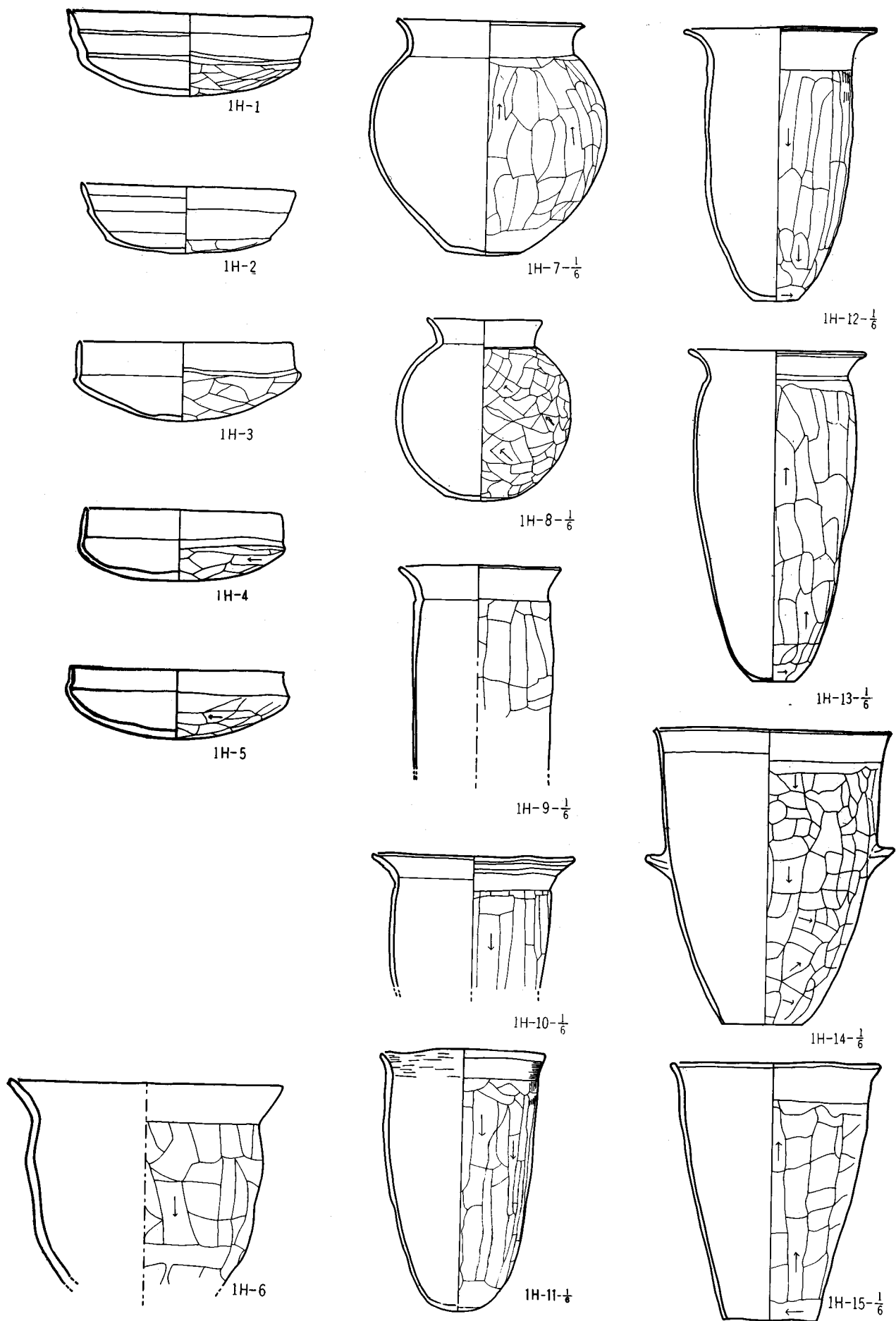


Fig 50 光屋敷置跡出土遺物(1)

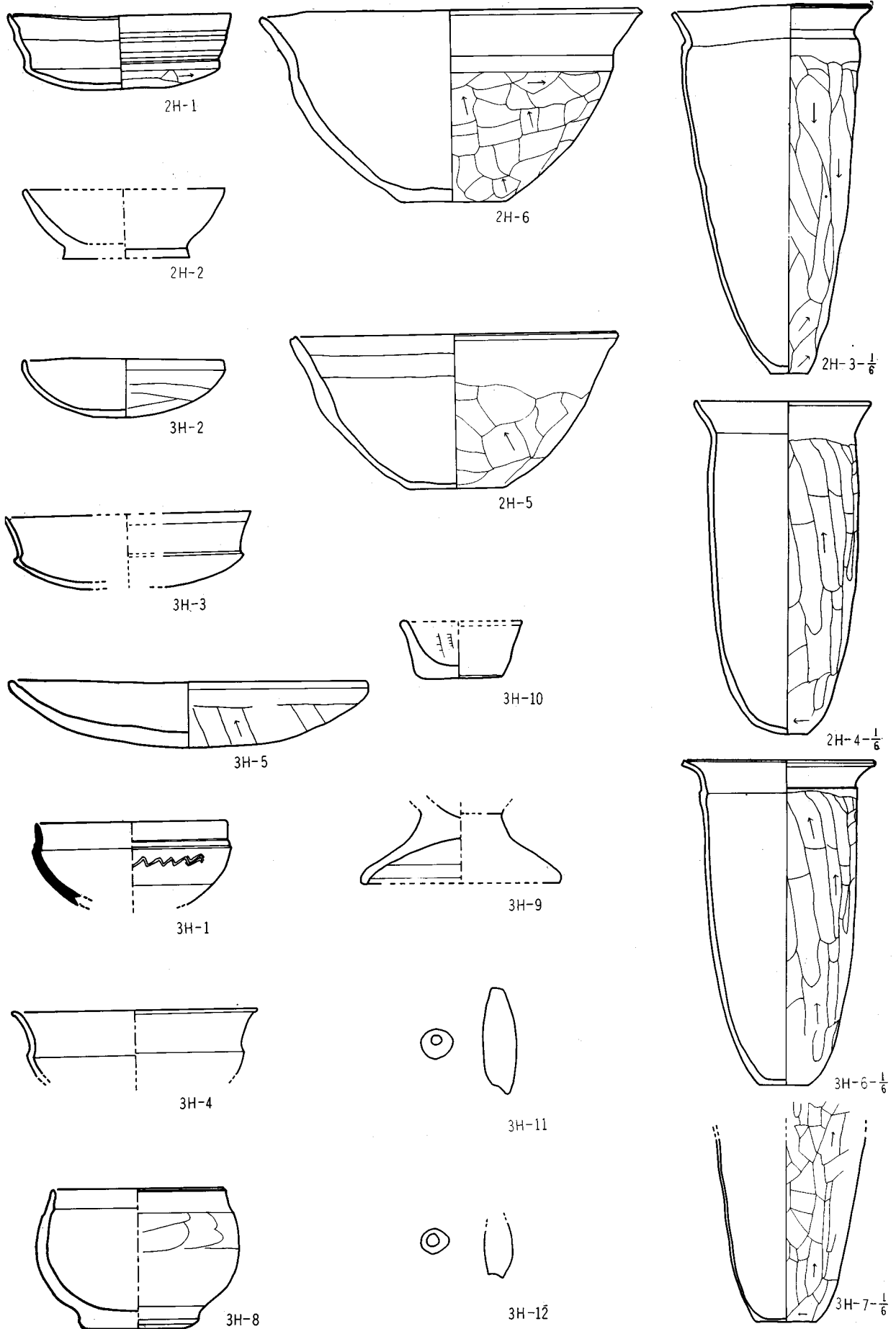
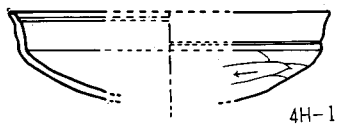
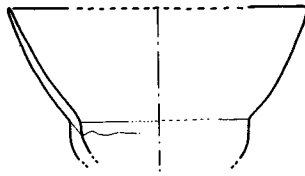


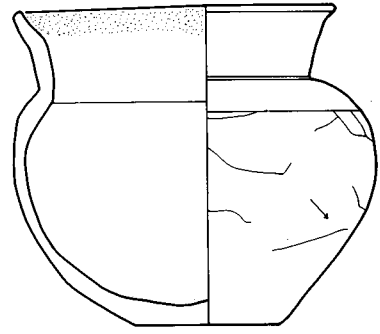
Fig51 光屋敷置跡出土遺物(2)



4H-1



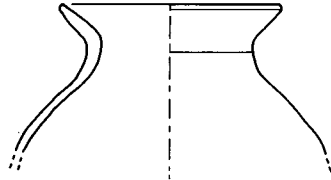
4H-5



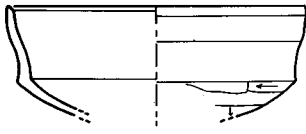
5H-4



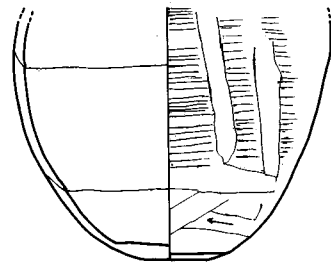
5H-1



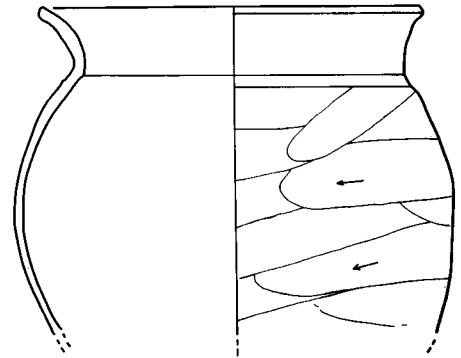
4H-6- $\frac{1}{6}$



5H-2



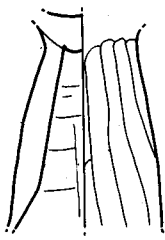
4H-7- $\frac{1}{6}$



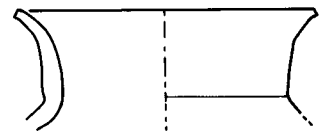
5H-5



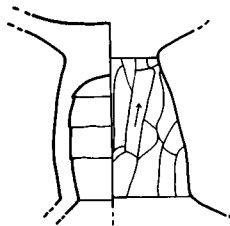
5H-3



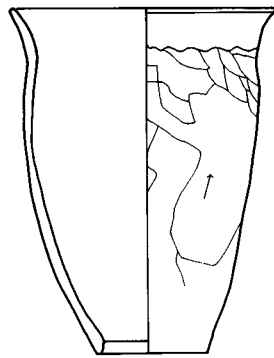
4H-2



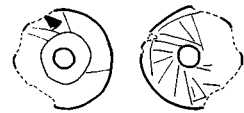
5H-6



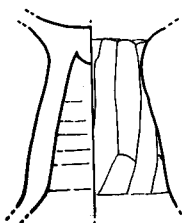
4H-3



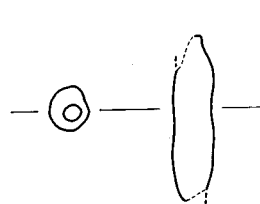
4H-8- $\frac{1}{6}$



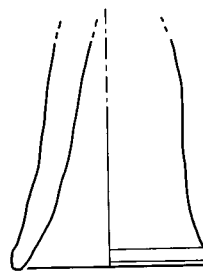
4H-9



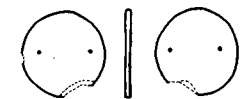
4H-4



5H-7



4H-11



4H-10

Fig 52 光屋敷置跡出土遺物(3)

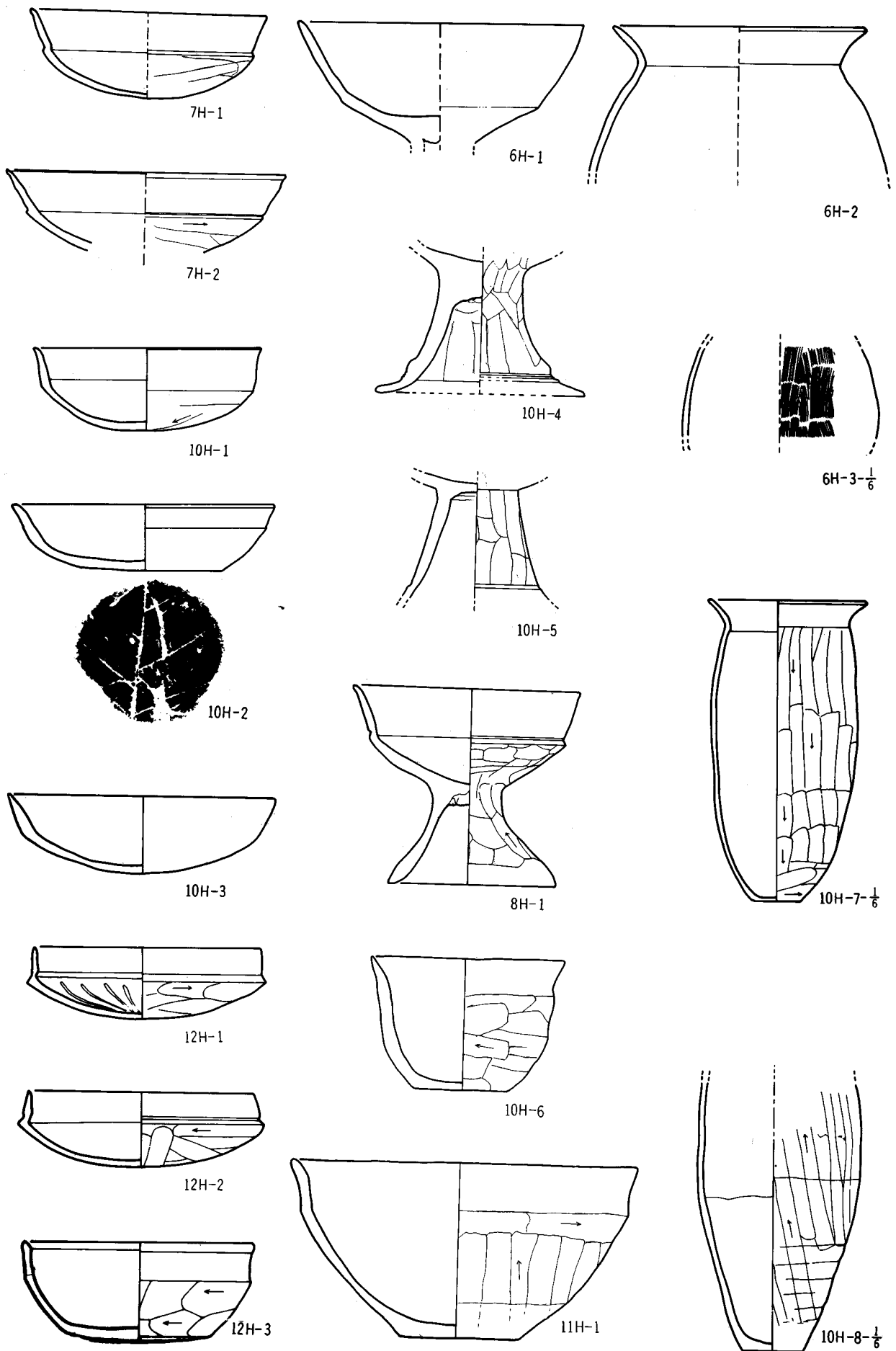


Fig 53 光屋敷置跡出土遺物(4)

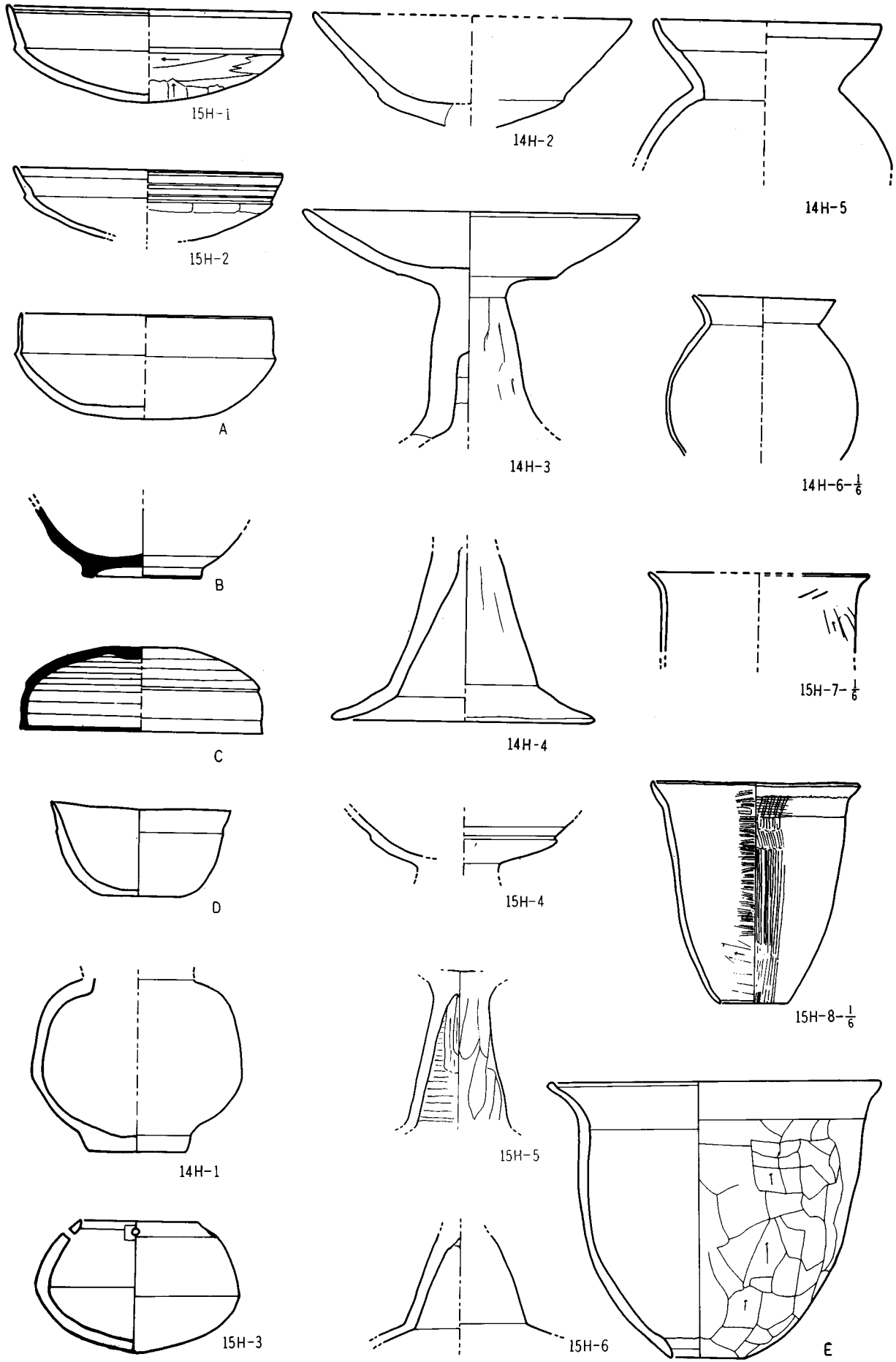


Fig 54 光屋敷置跡出土遺物 (5)

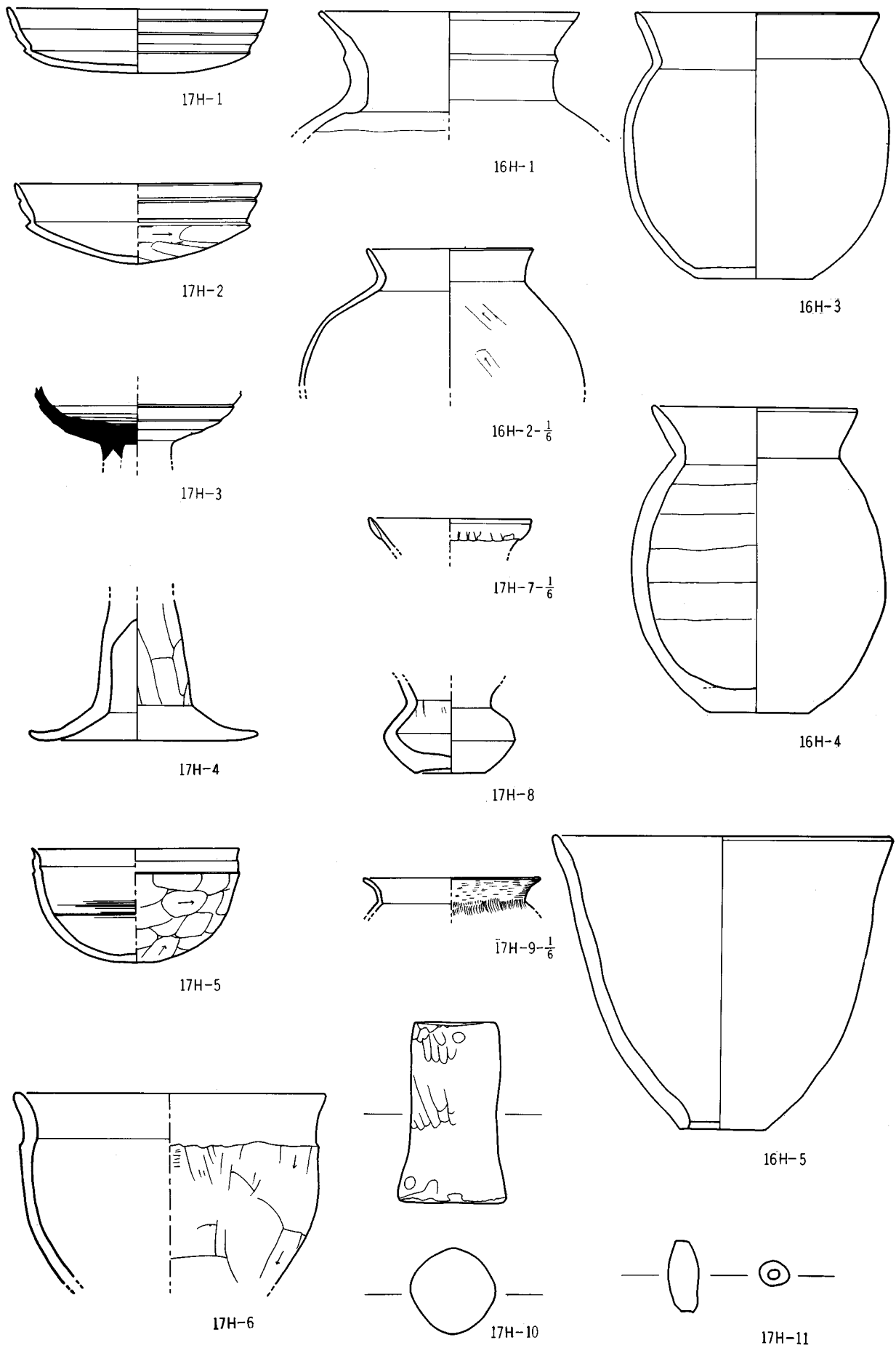


Fig 55 光屋敷置跡出土遺物(6)

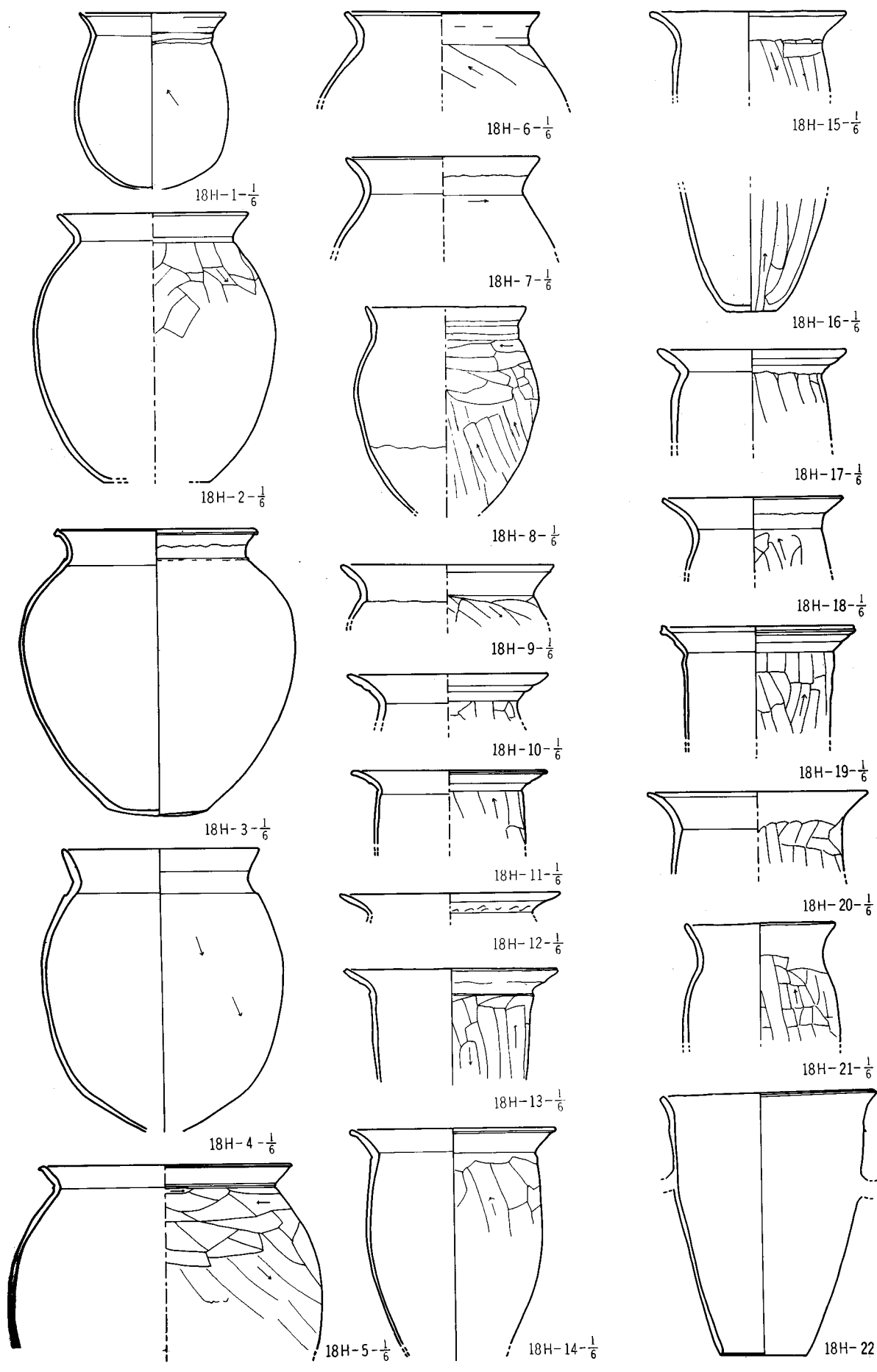


Fig 56 光屋敷置跡出土遺物 (7)

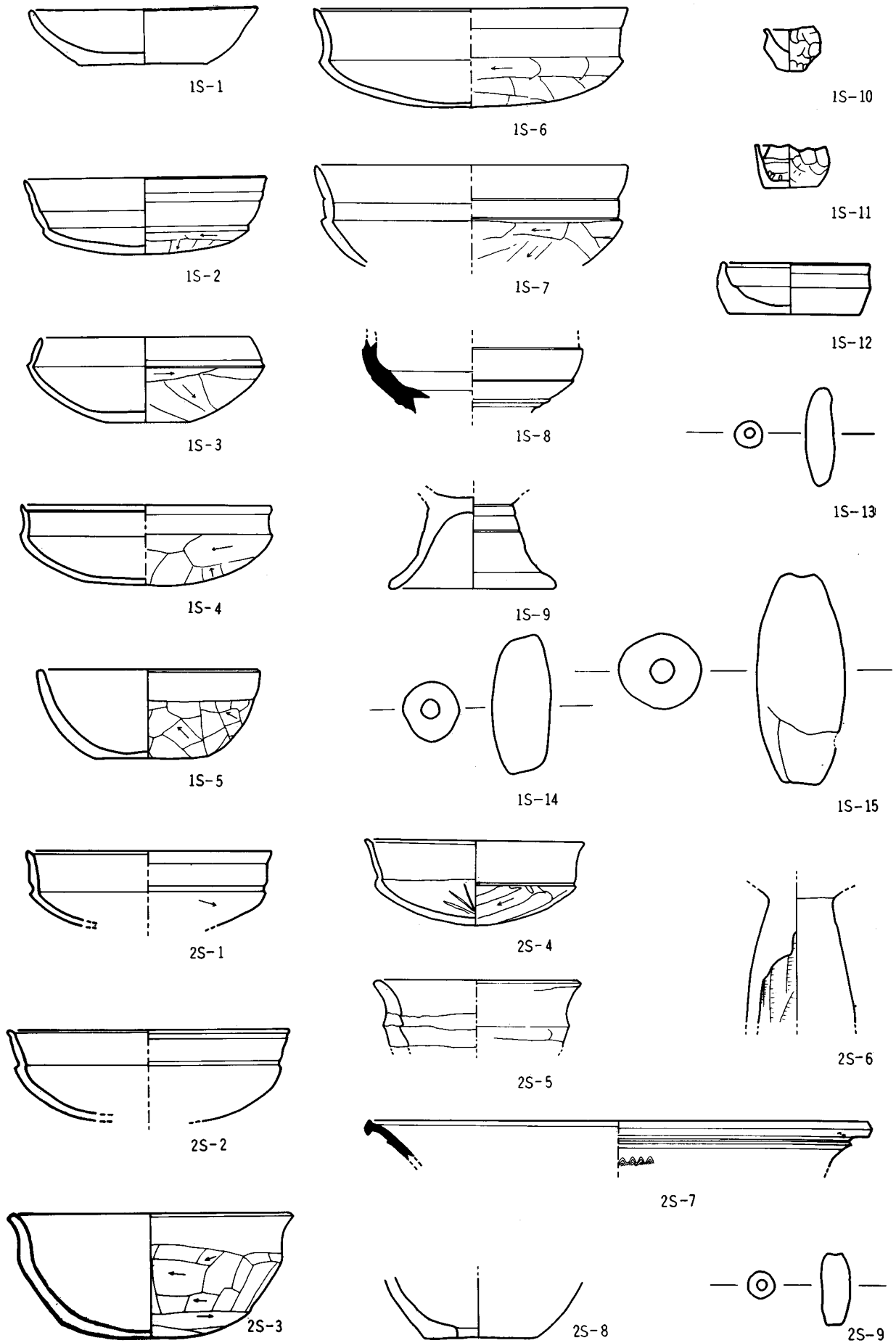


Fig 57 光屋敷置跡出土遺物 (8)

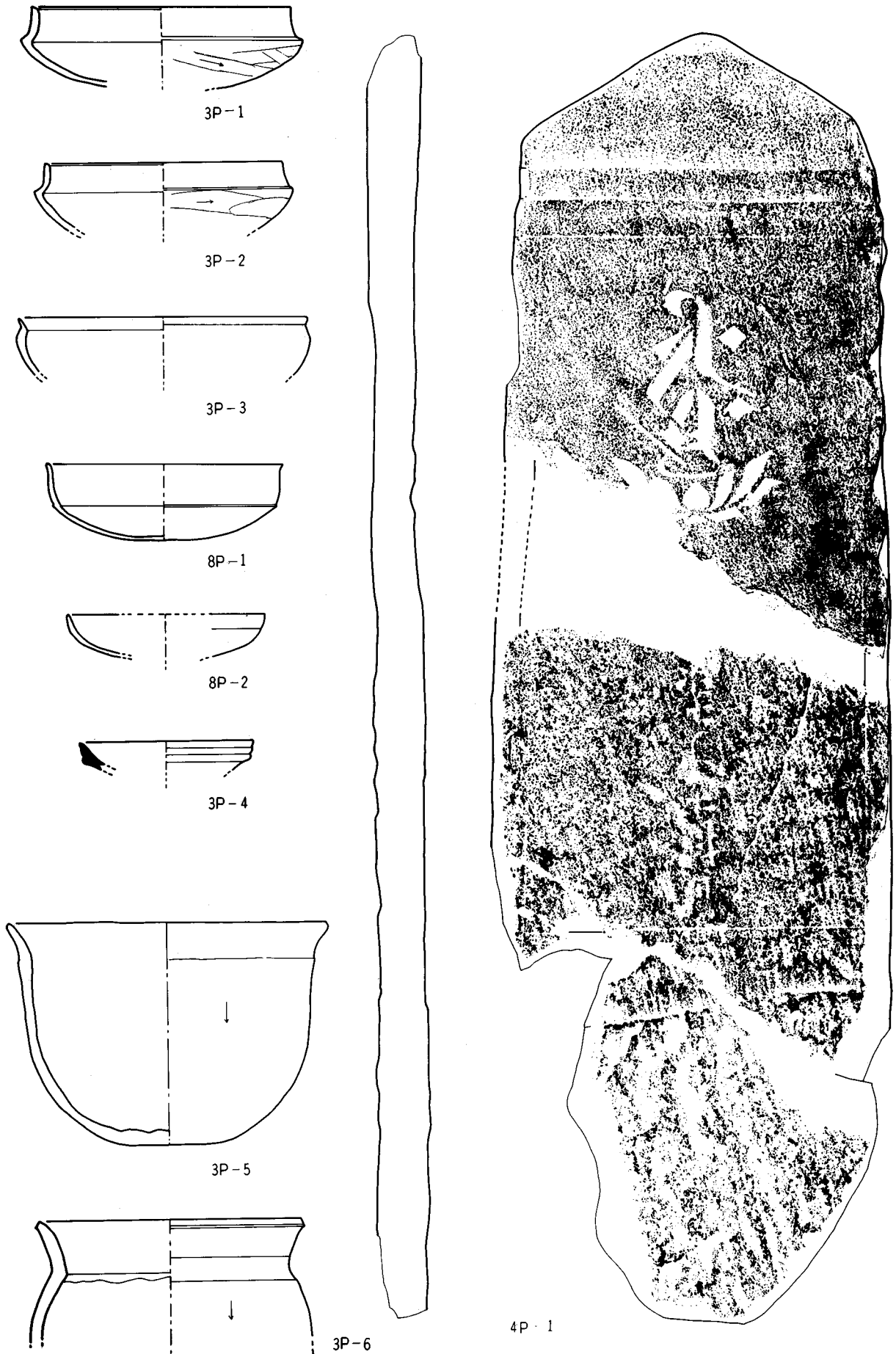


Fig 58 光屋敷置跡出土遺物 (9)

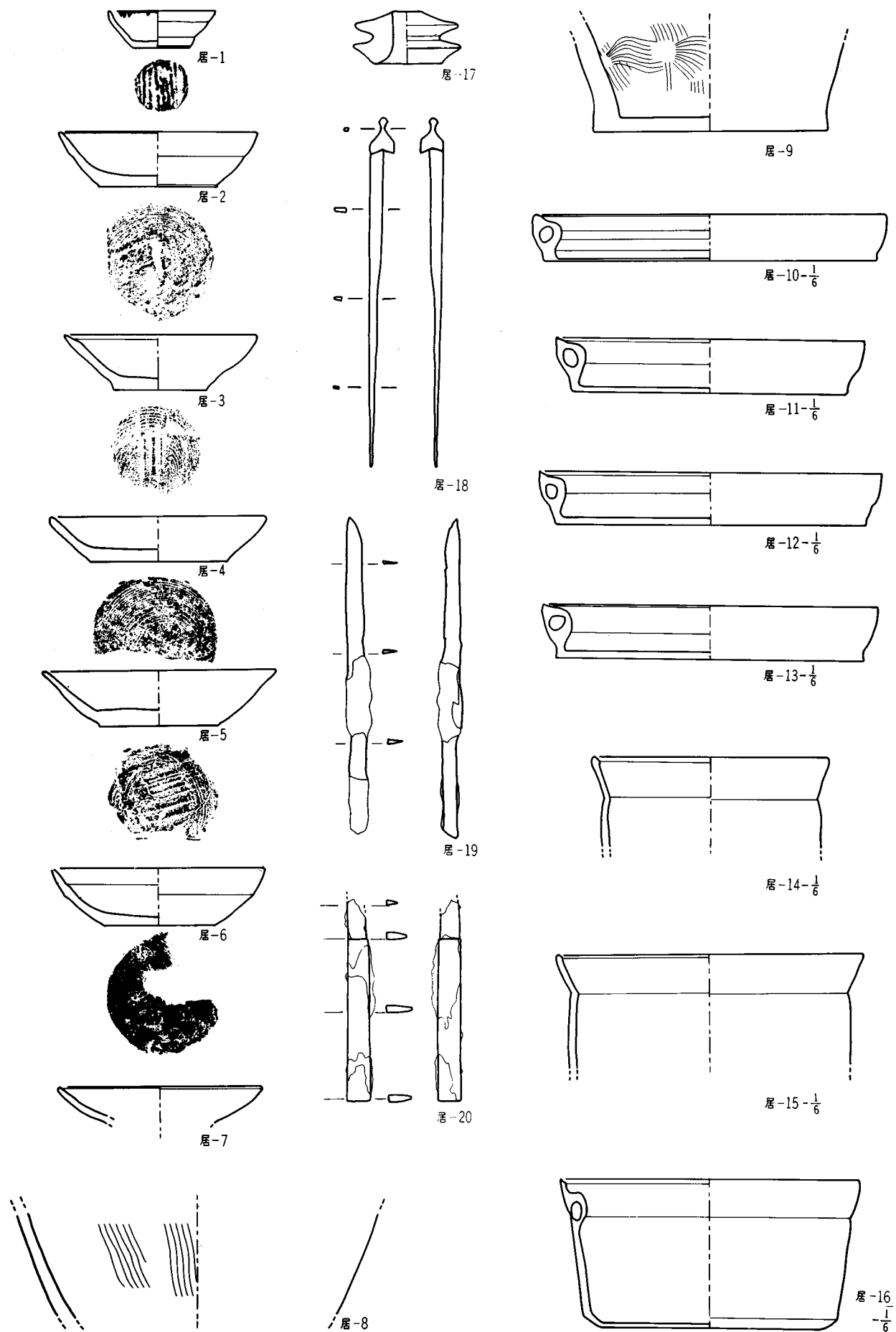


Fig 59 光屋敷置跡出土遺物 (10)

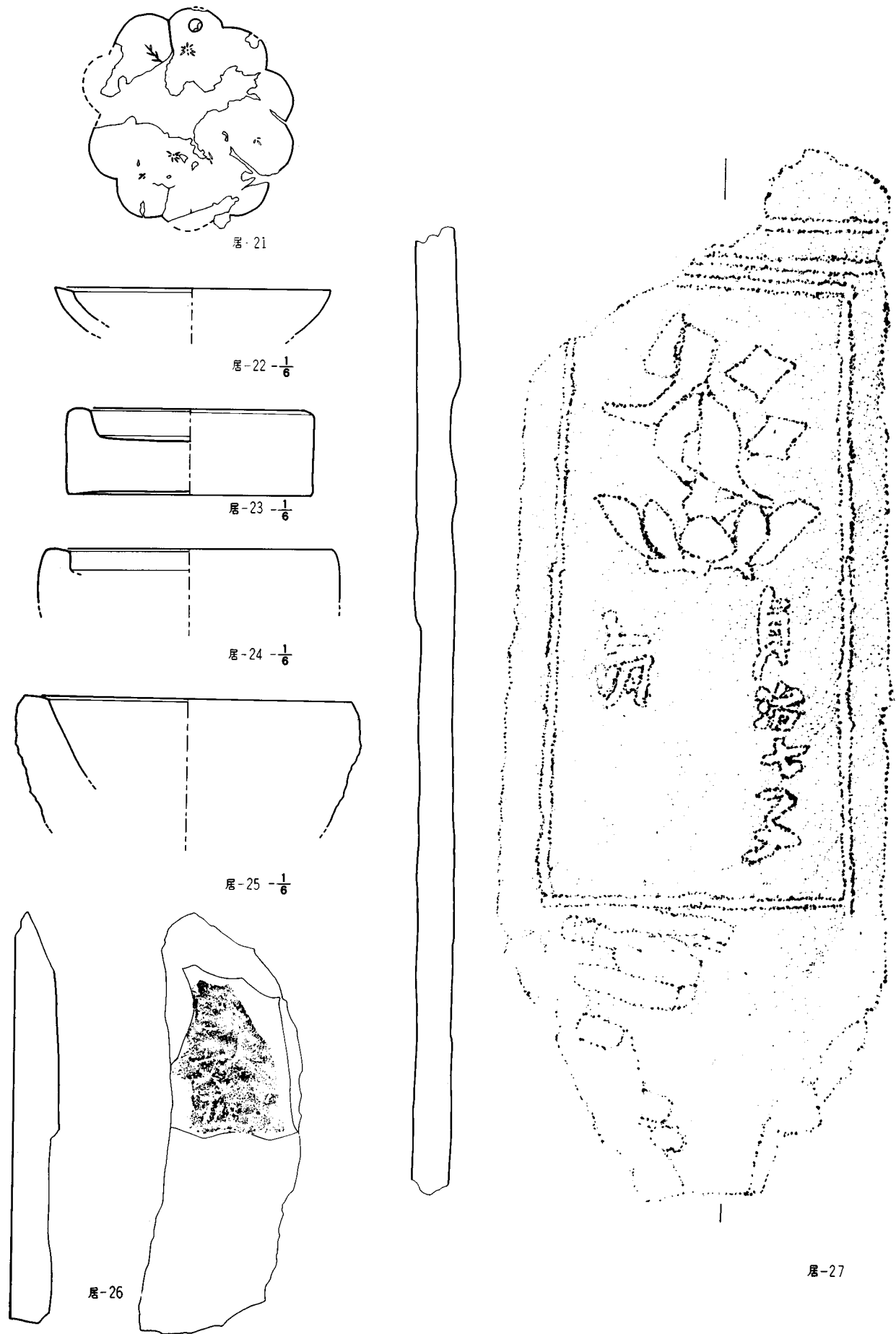
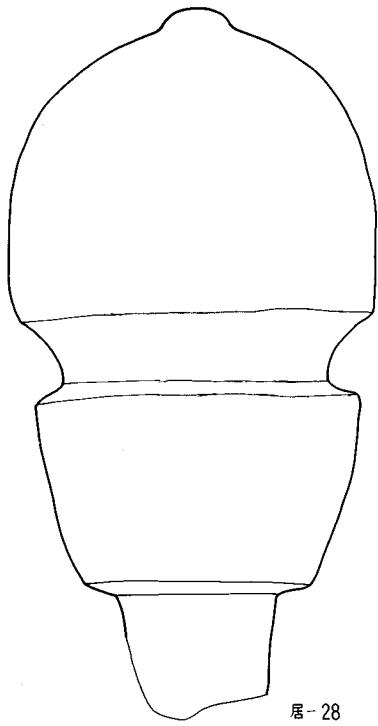
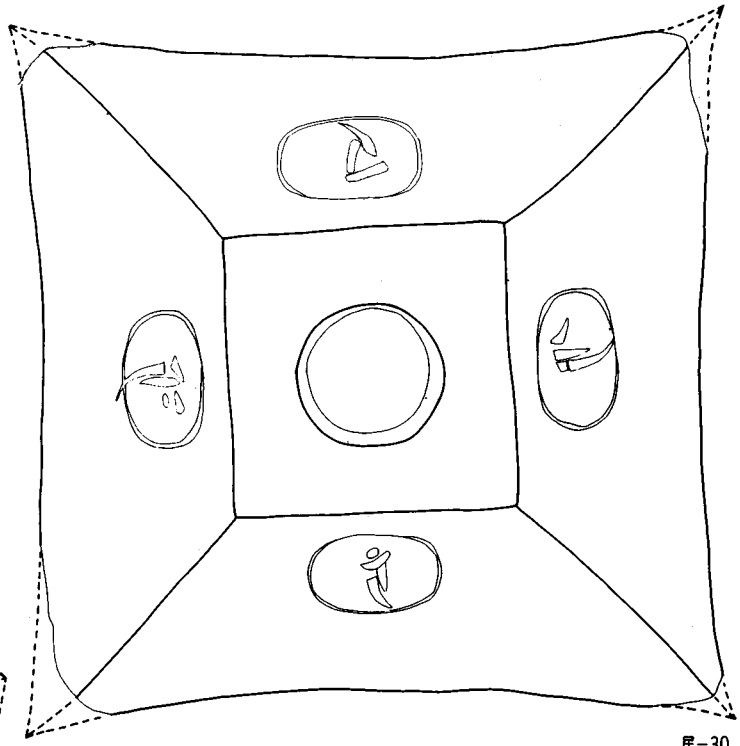
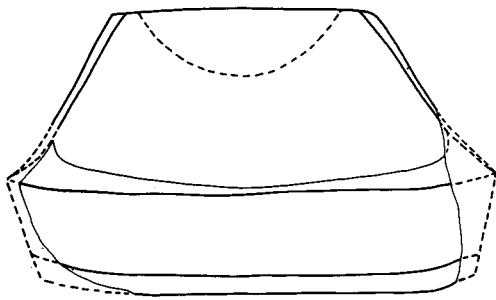
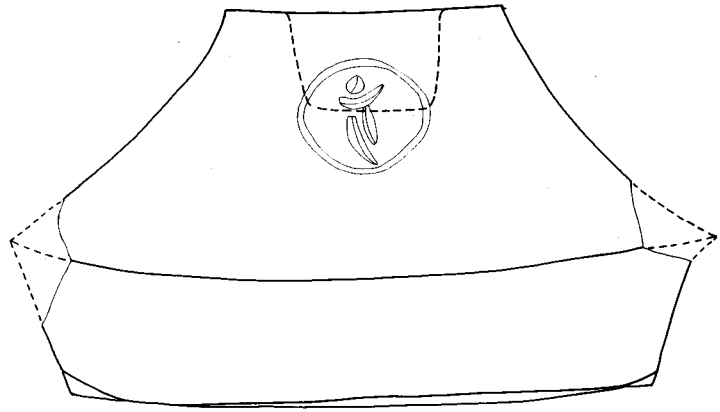


Fig 60 光屋敷置跡出土遺物(1)



居-28



居-30

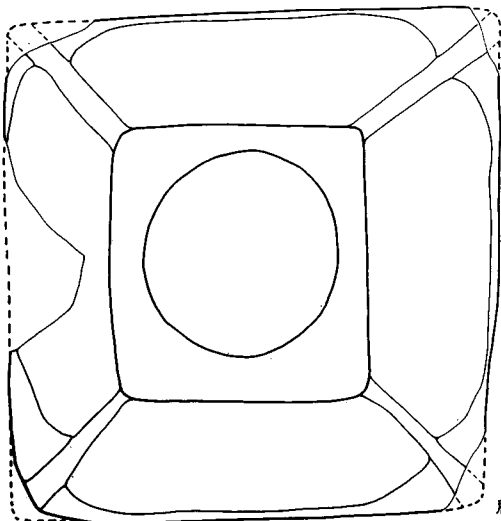


東面

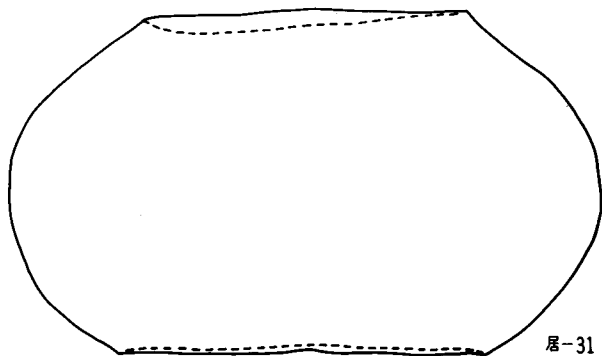
南面

西面

北面

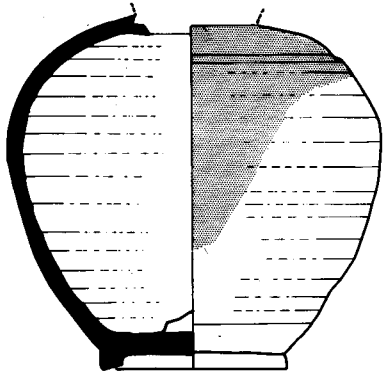


居-29



居-31

Fig 61 光屋敷置跡出土遺物(12)



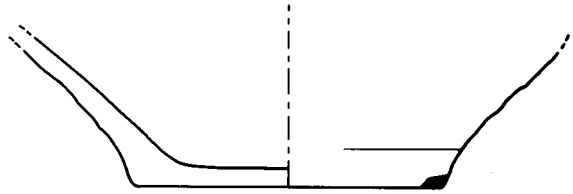
2G-1



2G-2



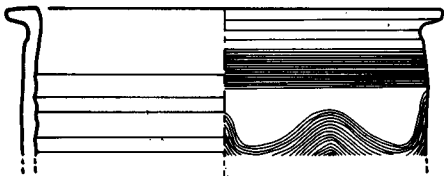
近-1



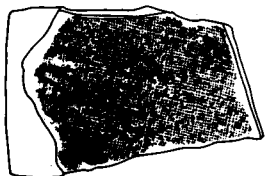
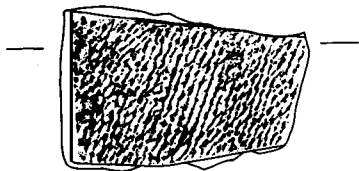
近-4



近-2



近-3



近-5

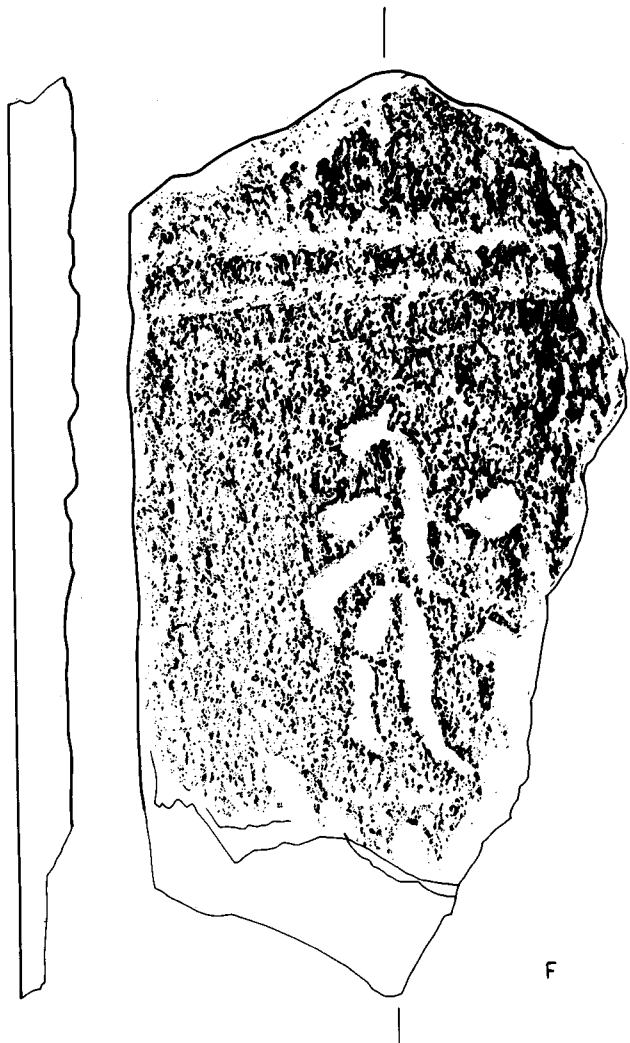


Fig 62 光屋敷置跡出土遺物 (13)



1H-1



1H-2



1H-3



1H-4



1H-5



2H-1



3H-1



3H-2



3H-5



10H-1



10H-2



10H-3



1H-11



2H-3



10H-7



1H-12



2H-4



18H-8



1H-13



3H-6



18H-1

PL.-31



1H-7



14H-5



1H-8



16H-4



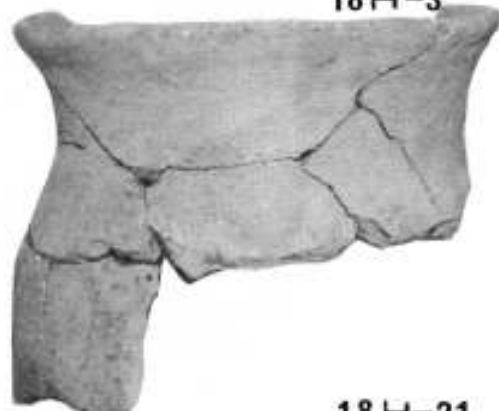
5H-4



18H-3



5H-5



18H-21



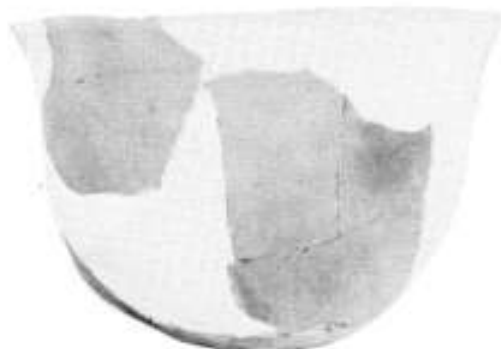
2H-5



17H-5



2H-6



3P-5



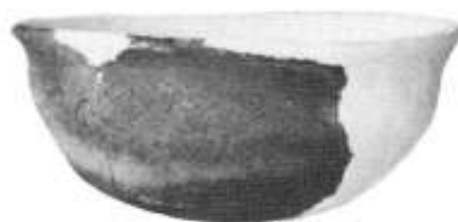
10H-6



1S-5



11H-1



2S-3



12H-3



D



3H-9



1S-9



10H-4



14H-1



10H-5



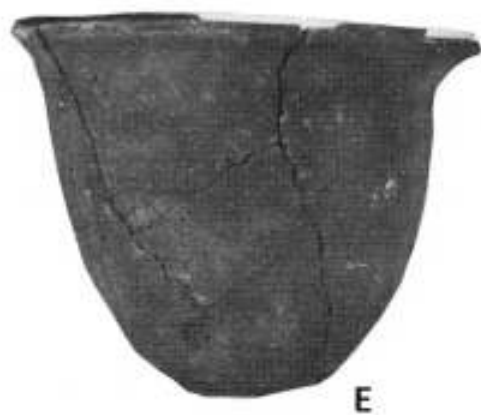
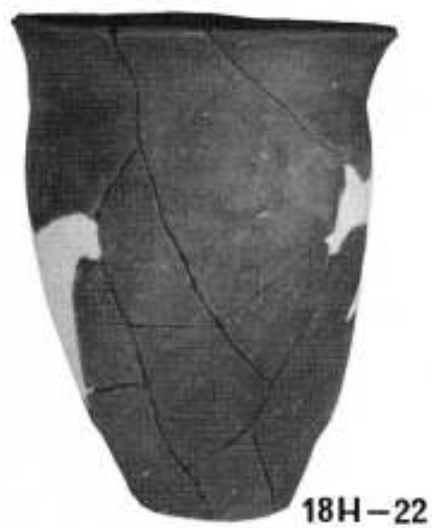
15H-3



8H-1



17H-8





1S-10



1S-11



1S-12



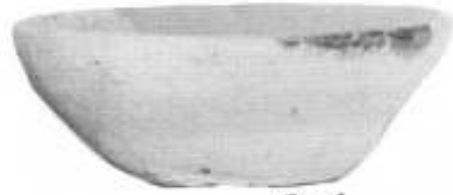
3H-10



4H-10



4H-9



居-1



居-2



居-11



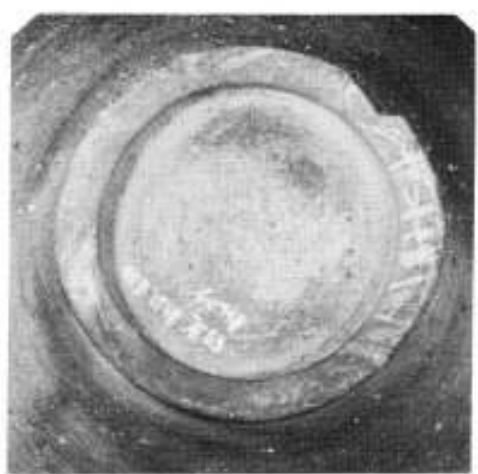
居-13



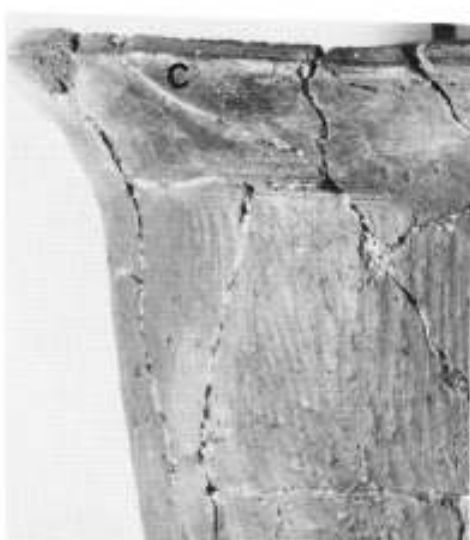
居-16



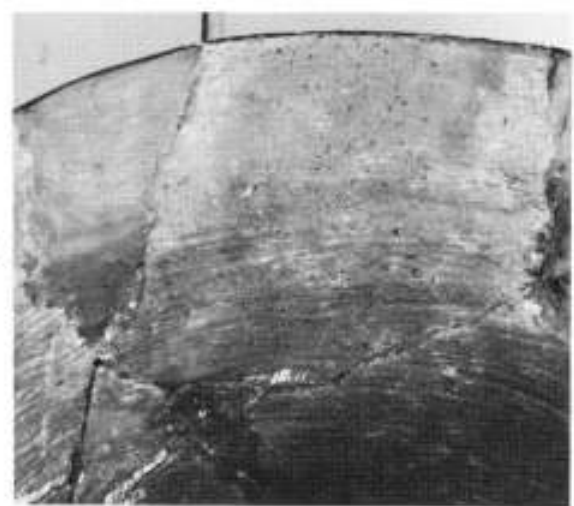
2G-1



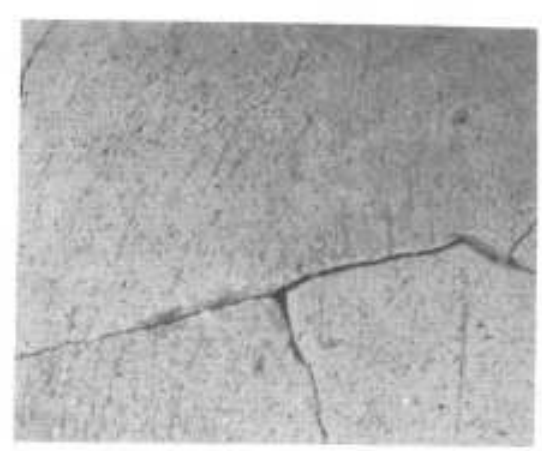
2G-2



15H-8



4H-7



1H-7



昭和59年3月発行

昭和58年度 調査・光屋敷遺跡遺物

中 条 遺 跡 群

編集発行 埼玉県熊谷市教育委員会

印刷 株式会社 博文社
